ハンドブック

Windows® SteadyState™

不特定多数のユーザーが使用するコンピュータを管理者が設定した状態に維持

Microsoft®

このドキュメントに記載されている情報は、本書の発行時点における米国 Microsoft Corporation の見解を反映したものです。変化する市場状況に対応する必要があるため、このドキュメントは、記載された内容の実現に関するマイクロソフトの確約とは見なさないものとします。また、発行以降に発表される情報の正確性に関して、マイクロソフトはいかなる保証もいたしません。

このドキュメントに記載された内容は情報提供のみを目的としています。明示、黙示または法律の規定にかかわらず、このドキュメントの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。

このドキュメントに記載されている情報 (URL 等のインターネット Web サイトに関する情報を含む) は、将来予告なしに変更することがあります。別途記載されていない場合、このドキュメントの例で使用されている会社名、組織名、製品名、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事は架空のものです。実在する会社名、組織名、製品名、ドメイン名、電子メール アドレス、ロゴ、人物、場所、出来事とは一切関係ありません。お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。このドキュメントのいかなる部分も、米国 Microsoft Corporation の書面による許諾を受けることなく、その目的を問わず、どのような形態であっても、複製または譲渡することは禁じられています。ここでいう形態とは、複写や記録など、電子的な、または物理的なすべての手段を含みます。ただしこれは、著作権法上のお客様の権利を制限するものではありません。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

Microsoft、Active Directory、ActiveX、Internet Explorer、MSDN、Systems Management Server、Visual Basic、Windows、Windows Live、Windows Server、Windows SteadyState、および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

目次

Windows SteadyState の概要

Windows® SteadyState™ を使用すると、管理者は共有コンピュータの設定および管理がしやすくなり、コンピュータ ユーザーは共有コンピュータの信頼性および一貫性を享受できます。Windows SteadyState を使用すると、次のことを効率的に行うことができます。

- 共有コンピュータのハード ディスクが無断で変更されることの防止
- システム設定およびシステム データに対するユーザーのアクセスの制限
- 共有コンピュータの操作環境の向上

これらの機能を備えた Windows SteadyState は、学校、公共の図書館、地域の技術センター、インターネット カフェなど、コンピュータを複数のユーザーで使用する環境で効果を発揮します。

共有コンピュータの保護

共有コンピュータ環境には、固有の課題があります。Microsoft ソフトウェアは、操作環境のカスタマイズやコンピュータの設定の変更に関して非常に高い柔軟性をユーザーに提供しますが、共有コンピュータ環境では、カスタマイズや変更のためのすべての機能をユーザーに提供すると、コンピュータの正常な動作や他のユーザーの操作環境に影響を与えるような変更が行われる可能性があるため、通常、管理者は一部の機能を制限しなくてはなりません。共有コンピュータでは、プライバシーと一貫性の維持がシステムの管理と使用における重要な要素となります。Windows SteadyState を使用することにより、管理者は望ましくない変更から共有コンピュータを保護できます。

このハンドブックの内容

Windows SteadyState ハンドブックは、ユーザーが迅速かつ効率的に Windows SteadyState をインストールし、ユーザー プロファイルおよびコンピュータの設定とカスタマイズを行い、他の Windows SteadyState の機能を有効に使用できるように構成されています。

ここでは、このハンドブックに記載されているインストール タスク、構成タスク、および処理手順について簡単に説明します。

注： *このハンドブックまたは Windows SteadyState についてのコメントは、Windows SteadyState コミュニティ Web サイト (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=77957) で入力できます。*

Windows SteadyState のインストール

ここに記載されたステップ バイ ステップの Windows SteadyState のインストール手順に従って、コンピュータを複数のユーザーで共有する環境を準備します。インストール手順には、インストール処理を効率的に行うためのプレインストール タスクも含まれます。

ユーザー アカウントの作成とユーザー設定の構成

Windows SteadyState では、コンピュータ上の各ユーザー アカウントに対して異なるシステム制限および機能制限を適用して、Windows システム ツールおよびその他のサービス、アプリケーション、ファイル、データへのユーザーのアクセスを制限できます。

コンピュータの制限の設定

コンピュータの制限を設定すると、プライバシーおよびセキュリティの制限をコンピュータ全体に適用し、統一された操作環境を設計できます。

ソフトウェア更新のスケジュール

Windows SteadyState の [ソフトウェア更新のスケジュール] は、更新プログラムのダウンロードとインストールに役立ちます。ソフトウェア更新のスケジュールを使用すると、Windows ディスク保護が有効な場合でも、重要な更新プログラムが確実にコンピュータに適用され、更新プログラムが削除されないようにする効果があります。

ハード ディスクの保護

Windows ディスク保護は、Windows オペレーティング システムおよびプログラム ファイルに永続的な変更が加えられないように保護します。ユーザーの通常のアクティビティの中で、ハード ディスクに影響を与える操作が実行される可能性があります。Windows ディスク保護は、ユーザーのセッション中に加えられた変更を破棄し、コンピュータの再起動時に Windows パーティションを既定の環境に戻します。

ユーザー プロファイルのエクスポートとインポート

エクスポート機能とインポート機能を使用すると、コンピュータで作成された共有ユーザー プロファイルをエクスポートして、Windows SteadyState がインストールされた任意のコンピュータにインポートできます。

高度な技術を持つ管理者向けのシナリオ

ここに示す高度なシナリオは、Microsoft® Windows XP の構成と管理について高度な専門技術と経験を有する Windows SteadyState 管理者を対象にしています。

Windows SteadyState のインストール

Windows SteadyState のインストールは、コンピュータを複数のユーザーで共有する環境の準備と、Windows SteadyState のインストールから成ります。ここでは、次の内容について説明します。

- システム要件の確認
- 共有使用のためのシステムの構成
- プレインストール タスクの実行
- Windows SteadyState のインストールとアンインストール
- Windows SteadyState の使用

システム要件の確認

Windows SteadyState を実行するシステムは、表 1 に示す最小限のシステム構成要件を満たしている必要があります。

表 1 : システム要件

コンポーネント	要件
コンピュータおよびプロセッサ	クロック速度 300 MHz 以上のプロセッサを推奨、最小限 233 MHz が必要 (シングルまたはデュアル プロセッサ システム)。 * Intel Core/Pentium/Celeron ファミリ、AMD K6/Athlon/Duron ファミリ、またはこれらと互換のプロセッサを推奨。
メモリ	128 MB 以上の RAM を推奨 (最小限のサポートは 64 MB、パフォーマンスおよび一部の機能が制限される可能性があります)。
ハード ディスク	Windows ディスク保護を使用しない場合は 1.5 GB のハード ディスク領域、Windows ディスク保護を使用する場合は 4.0 GB のハード ディスク領域。
オペレーティング システム	Windows XP Service Pack 2 (SP2) がインストールされた Windows XP Professional、Windows XP Home Edition、または Windows XP Tablet PC Edition。 注 : Windows Vista™ では Windows SteadyState を実行できません。
ファイル システム	NTFS ファイル システム。

コンポーネント	要件
ツール	Windows Scripting および Windows Management Instrumentation (WMI) が動作している必要があります。
アクセス	管理者レベルのアクセス権。

共有使用のためのシステムの構成

共有コンピュータを構成する効率的な方法は、ユーザーに提供するすべての機能、サービス、およびプログラムを最初にインストールすることです。このように Windows SteadyState をインストールする前にシステムを構成しておくと、共有ユーザー プロファイルを効率的に設定でき、既存の構成を使って設定を定義したり制限を設定できます。

Windows SteadyState のインストール後には、プログラムを追加または削除することができます。ただし、削除する前に、Windows ディスク保護をオフにする必要があります。また、変更を反映させるには、各ユーザー設定を再構成する必要があります。

重要：*Windows ディスク保護をオンにした場合は、新しいソフトウェアのインストールや新しい制限の設定を行う前に、このオプションをオフにする必要があります。*

注意：*共有コンピュータ環境に対して最適化されていないソフトウェアもあります。たとえば、デスクトップ検索ツールでは、共有コンピュータ上に個人情報が表示される場合があります。また、構成が必要な電子メール クライアント、および Fax サービスやインターネット インフォメーション サービス (IIS) などの Windows コンポーネントは、コンピュータ管理の負担を増やす要因となる場合があります。これらのソフトウェアによって、共有コンピュータの操作環境の一貫性が損なわれることもあります。*

ユーザー補助

Windows SteadyState では、ユーザー補助に対する特別な規定は設定されていません。Windows SteadyState の使用時には、Windows XP Professional で提供されているすべてのユーザー補助機能を使用できます。

注：*Windows XP の [コントロール パネル] に対する共有ユーザーのアクセスを制限して、共有ユーザーがコンピュータのシステム設定を変更できないようにすることをお勧めします。この推奨される制限を設定した場合でも、ユーザーは Windows XP の [アクセサリ] メニューからユーザー補助の設定を変更できます。*

プレインストール タスクの実行

Windows SteadyState をインストールする前に、次の操作を行います。

- 必要に応じて、Windows SteadyState の前身である、Windows XP 用 Microsoft Shared Computer Toolkit をアンインストールします。詳細については、このハンドブックの「Shared Computer Toolkit をアンインストールするには」を参照してください。
- システム ドライブを最適化し、ディスプレイの設定を構成し、ユーザー プロファイルに対して使用を許可しないソフトウェアを削除します。共有システムの場合は、インターネットの履歴フォルダや [マイ ドキュメント] に保存されたファイルなども削除するかどうかを検討します。
- オプションの Windows SteadyState のインストール先が共有コンピュータの場合、セキュリティをより強化した環境を構築するには、Windows XP を再インストールします。インストール対象のコンピュータに複数の利用者があり、複数のアプリケーションがインストールされ環境設定されていると、セキュリティ上の安全を確保した共有システムの管理が難しいことがあります。Windows XP の再インストールの詳細については、このハンドブックの「Windows XP の再インストール」を参照してください。

重要：*Windows ディスク保護を設定する前に、このステップを実行することが重要です。*

- Windows Update Web サイトで、最新の重要な更新プログラムをダウンロードしてインストールします (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83424)。
- 最新のウイルス対策ソフトウェアをダウンロードしてインストールします。
- ウイルス、不要なソフトウェア、および悪意のあるソフトウェアをスキャンします。
- Administrator のパスワードを設定します。
- ユーザーに提供するすべての機能、サービス、およびプログラムをインストールします (推奨)。Windows SteadyState のインストールの前に行う共有アクセス コンピュータの構成の詳細については、このハンドブックの「共有使用のためのシステムの構成」を参照してください。

Windows XP の再インストール

コンピュータに複数の利用者があり、複数の利用者によって共有コンピュータとして再構成されている場合、Windows SteadyState のインストール前に Windows XP の再インストールを検討する必要があります。

Windows XP を再インストールする理由は次のとおりです。

- 利用環境のセキュリティ、ユーザーのプライバシー、パフォーマンスおよび安定性の強化に最も役立つ手段が再フォーマットおよび再インストールである。
- Windows XP を再インストールすると、Shared Computer Toolkit の初期インストール時に個別のパーティションを作成した場合、このパーティションが自動的に削除される。
- 再インストールする際に、新しいディスク パーティションを作成できる。専用のディスク パーティションを作成すると、Windows ディスク保護キャッシュの作成時に維持しておく必要がある常設のファイルやユーザー プロファイルの保存に使用できるため、Windows ディスク保護の使用の際に役立ちます。なデータおよびファイルの恒久的な保存方法の詳細については、このハンドブックの「専用パーティションへの恒久的なユーザー プロファイルの作成」を参照してください。

Windows XP の再インストールの詳細については、サポート技術情報の記事番号 896528 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=87588) を参照してください。

▶ Shared Computer Toolkit をアンインストールするには

重要 : *Shared Computer Toolkit をアンインストールしても、共有ユーザー プロファイルはコンピュータ上に残るため、共有ユーザー プロファイルに設定された制限はアンインストール後も保持されます。既存の共有ユーザー プロファイルは、Windows SteadyState をインストールすると使用できます。*

1. Windows ディスク保護をオフにします。
   a. [スタート] メニューの [プログラム] をポイントし、[Microsoft Shared Computer Toolkit] をクリックして、Shared Computer Toolkit を開きます。
   b. [Windows ディスク保護] をクリックします。
   c. [オフのままにする] をクリックします。
   d. メッセージが表示されたら、コンピュータを再起動します。
2. 必要に応じて、共有ユーザー プロファイルに設定された制限を削除します。
3. Shared Computer Toolkit をアンインストールします。
   a. [スタート] メニューの [プログラム] をポイントし、[Microsoft Shared Computer Toolkit] をクリックして、[Shared Computer Toolkit のアンインストール] をクリックします。

次のようなメッセージが表示されます。"Toolkit を削除すると、コンピュータが自動的に再起動します。"

b. [削除] をクリックしてアンインストール処理を開始します。

c. [完了] をクリックしてコンピュータを再起動します。

4. User Profile Hive Cleanup Service (UPHClean) を削除します。

   a. [スタート] メニューの [コントロール パネル] をクリックします。次に、[作業する分野を選びます] で、[プログラムの追加と削除] をクリックします。

   b. [User Profile Hive Cleanup Service] を選択し、[削除] をクリックします。

      次のようなメッセージが表示されます。"お使いのコンピュータから User Profile Hive Cleanup Service を削除しますか?"

   c. [はい] をクリックして Shared Computer Toolkit のアンインストール プログラムを開始します。この処理は約 5 秒で完了します。

5. Shared Computer Toolkit では、Windows ディスク保護のための専用のパーティションを作成する必要がありました。Windows SteadyState では必要でないため、このハード ディスク領域を解放し、パーティションを削除できます。

Shared Computer Toolkit をアンインストールしたら、Windows SteadyState のインストールに進みます。

Windows SteadyState のインストール

Microsoft ダウンロード センターから Windows SteadyState のインストール ファイルをダウンロードするか、CD からインストールすることができます。Windows SteadyState インストール ウィザードを使用して、コンピュータに Windows SteadyState をインストールします。

Windows SteadyState は、正規の Microsoft Windows XP オペレーティング システムを実行しているコンピュータにのみインストールできます。インストール ウィザードを起動すると、マイクロソフトによる Windows XP インストールの検証を行うかどうかの確認を求められます。Windows XP のインストールを検証できない場合は、その時点で有効なプロダクト キーを取得する機会が提供されます。

Windows Genuine Advantage (正規 Windows 推奨プログラム) の詳細については、Windows Genuine Advantage の Web サイト (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83431) を参照してください。

► Microsoft ダウンロード センターからインストール ファイルをダウンロードするには

Microsoft ダウンロード センターからダウンロードすると、[Windows SteadyState インストール ウィザード] アイコンがデスクトップに表示されて参照しやすくなります。

1. 共有コンピュータに管理者または Administrators グループのメンバとしてログオンします。
2. Microsoft ダウンロード センターにアクセスします (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83430)。
3. [検索] ボックスに、「Windows SteadyState」と入力します。
4. ダウンロード センター Web サイトに表示されるメッセージに従って操作します。
5. ダウンロードしたインストール ファイル (SteadyState_Setup.exe) をダブルクリックして、Windows SteadyState インストール ウィザードを開始します。

► Windows SteadyState をインストールするには

1. 共有コンピュータに管理者または Administrators グループのメンバとしてログオンします。
2. インストール ディスクまたはコンピュータから SteadyState_Setup.exe を起動します。SteadyState_Setup.exe を開始するには、ファイルのアイコンをダブルクリックします。
3. Windows SteadyState をインストールするには、[マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項] ページのライセンス条項に同意する必要があります。条項に同意する場合は、[ライセンス条項に同意する] をクリックし、[次へ] をクリックして Windows のコピーを確認します。
4. Windows SteadyState のインストールを続行するには、Windows のコピーが正規であることが確認される必要があります。使用するコンピュータの Windows を確認するには、[検証] をクリックします。コンピュータの Windows のコピーを確認しない場合、[キャンセル] をクリックして Windows SteadyState インストール ウィザードを終了します。
5. [完了] をクリックして Windows SteadyState のインストールを完了します。

► Windows SteadyState をアンインストールするには

1. Windows ディスク保護をオフにします。詳細については、このハンドブックの「ハード ディスクの保護」を参照してください。
2. 共有ユーザー プロファイル に設定されている制限を削除します。共有ユーザー プロファイルは、Shared Computer Toolkit または Windows SteadyState のアンインストール後も共有コンピュータ上に残され、プロファイルに適用した制限が保持されます。Windows SteadyState のアンインストール後もユーザー プロファイルの制限をそのまま保持する場合は、手順 3 に進みます。
3. [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。次に、[作業する分野を選びます] で、[プログラムの追加と削除] をクリックします。
4. [Windows SteadyState] を選択し、[削除] をクリックします。

Windows SteadyState の使用

Windows SteadyState のメイン画面は、適用可能な設定および制限にアクセスするための出発点となります。図 1 に示すように、これらの設定は 2 種類に分かれています。

- **コンピュータ設定** – これらの設定を使用して、コンピュータ全体の保護およびソフトウェア更新のスケジュールを設定します。
- **ユーザー設定** – これらの設定を使用して、特定のユーザー アカウントを構成して制限を設定します。

Windows SteadyState のメイン ダイアログ ボックスで選択可能なその他の設定およびオプションの詳細については、「表 2」を参照してください。

ヒント： *その他の情報およびサポートについては、Windows SteadyState の左側のナビゲーション ペインに、Windows SteadyState コミュニティ Web サイトなどの各種リソースへのリンクが表示されます。*

図 1 : Windows SteadyState メイン ダイアログ ボックスの設定およびオプション

表 2 : Windows SteadyState の設定およびオプションの説明

設定またはオプション	説明
1. コンピュータの制限の設定	• システム全体に及ぶグローバルなコンピュータの制限の設定。 • 共有コンピュータのプライバシー オプション、セキュリティ制限、およびその他の設定の選択。
2. ソフトウェア更新のスケジュール	• 自動または手動のソフトウェアおよびウイルス対策の更新のスケジュール。 • スケジュールされた間隔で実行されるカスタム スクリプトの追加。
3. ハード ディスクの保護	• Windows ディスク保護のオンとオフの切り替え。 • システム ドライブの保護レベルの設定。
4. ユーザー プロファイル	• ユーザー プロファイルの選択、Windows および機能の制限の構成、選択されたプロファイルのプログラムのブロック。 • ユーザー プロファイルのロックまたはロック解除。 • セッション タイマの設定、パスワードの変更、ユーザー プロファイル画像の変更、ユーザー プロファイルの削除。

設定またはオプション	説明
5. 新しいユーザーの追加	• 新しいユーザーの追加、ユーザー名の作成、パスワードの設定、ユーザー プロファイルの格納場所の選択。 • ユーザー プロファイルを識別する画像の選択。
6. ユーザーのエクスポート	• 既存ユーザー プロファイルのエクスポート。 • 別の共有コンピュータに移動できるようにユーザー プロファイルを保存する。
7. ユーザーのインポート	• 既存ユーザー プロファイルのインポート。 • エクスポートしたユーザー プロファイルを Windows SteadyState がインストールされた共有コンピュータにインポートする。
8. その他のサポート	• Windows SteadyState のその他のリソースへのリンクの検索。

ユーザー アカウントの作成とユーザー設定の構成

Windows SteadyState のインストールが完了したら、次のステップでは、共有コンピュータで使用する新しいユーザー アカウントを作成し、対応するユーザー プロファイルを構成します。

ここでは、次の内容について説明します。

- 共有ユーザーの用語を理解する。
- 共有ユーザー アカウントを作成する。
- 共有ユーザー プロファイルを構成する。
- 共有ユーザー プロファイルの設定および制限を理解する。
- 共有ユーザー プロファイルをテストする。

共有ユーザーの用語

表 3 に示す用語および定義は、Windows SteadyState または共有コンピュータの操作環境に固有のものであり、このハンドブックの内容にのみ適用されます。用語および定義の詳細については、このハンドブックの「付録 A : Windows SteadyState 用語集」を参照してください。

表 3 : 共有ユーザーの用語

用語	定義
共有ユーザー プロファイル	共有ユーザー プロファイルは、1 台のコンピュータ上の複数のユーザーにより共有される 1 つのユーザー アカウントに割り当てられた 1 つのユーザー プロファイルです。
ユーザー	ユーザーとは、共有コンピュータを使用するユーザーのことです。
共有ユーザー アカウント	複数のユーザーがログオンする単一のユーザー アカウントです。

図 2 は、Windows XP のユーザー プロファイルと、Windows SteadyState の共有ユーザー プロファイルの違いを示しています。Windows SteadyState で共有ユーザー プロファイルを作成した場合、設定および制限は、コンピュータ上の共有ユーザー アカウントにアクセスするすべてのユーザーに適用されます。

図 2：Windows XP のユーザー プロファイルと Windows SteadyState の共有ユーザー プロファイル

共有ユーザー アカウントの作成

複数の共有ユーザー アカウントを 1 つのコンピュータ上に作成し、各共有ユーザー アカウントに異なるシステム制限およびプログラム制限を適用して、Windows システム ツールおよびその他のサービス、アプリケーション、ファイル、データに対するユーザーのアクセスを指定します。

通常、ユーザー アカウントには、共有コンピュータへのアクセスを許可される個人または個人グループを表す名前を付けます。ユーザー アカウント名は、アカウントの対象となるユーザー グループまたはユーザー カテゴリを表します。ユーザー アカウントの名前を付ける前に、対象となるユーザー、およびユーザー アカウントに適用する必要がある制限のレベルを決定します。たとえば、次に該当するかどうかを検討します。

- コンピュータ上のほとんどのアプリケーションへのアクセスを許可し、[コントロール パネル] の設定などの多数のコンピュータ構成アプリケーションを使用できるが、非常に高度な管理ツールおよびアプリケーションの利用に制限を設けるようにするスタッフ。

- コンピュータ上のほとんどのアプリケーションへのアクセスを許可するが、コンピュータの構成設定を変更できないようにする成人。
- インターネットの利用に制限を設定する必要がある子供。

▶ 共有ユーザー アカウントを作成するには

1. Windows SteadyState のメイン ダイアログ ボックスの [ユーザー設定] で、[新しいユーザーの追加] をクリックします。
2. [新しいユーザーの追加] ダイアログ ボックスで、[ユーザー名] ボックスにユーザー名を入力します。
3. [パスワード] ボックスと [パスワードの確認入力] ボックスに、パスワードを入力します。

注： *Windows XP に適用されるパスワード ポリシーの要件は、整形式のパスワード要件も含め、Windows SteadyState にも適用されます。パスワードの作成の詳細については、http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83432 (英語) を参照してください。*

4. [ユーザーの場所] ボックスで、この共有ユーザー アカウントに関連付ける共有ユーザー プロファイルを保存するドライブを選択します。通常、ユーザー プロファイルに関連するファイルおよびディレクトリは、Windows XP がインストールされたシステム ドライブに格納されます。
5. [画像] ボックスで、共有ユーザー プロファイルに関連付ける画像 を選択し、[OK] をクリックします。

ほとんどの場合、共有ユーザー プロファイルは、Windows XP のインストール先と同じドライブに保存します。ただし、Windows ディスク保護をオンにして、後でアクセスできるようにコンピュータへの情報の保存をユーザーに対して許可する場合は、ユーザー プロファイルをロック解除されたユーザー プロファイルとして別のドライブに保存できます。Windows ディスク保護では、オペレーティング システムのファイルを含むパーティションだけが保護されます。別のドライブにロック解除されたユーザー プロファイルを保存すると、ユーザーのデータは Windows ディスク保護によって削除されません。

恒久的なユーザー プロファイルおよびデータの詳細については、このハンドブックの「専用パーティションへの恒久的なユーザー プロファイルの作成」を参照してください。

ロックされたユーザー プロファイルの詳細については、このハンドブックの「プロファイルのロック」を参照してください。

共有ユーザー プロファイルの構成

共有ユーザー アカウントを作成したら、関連付ける共有ユーザー プロファイルに特定の設定および制限を手動で構成できます。共有ユーザー プロファイルをカスタマイズし、共有ユーザー プロファイルのユーザーの環境を作成できます。

Windows SteadyState の管理者は、既定の [高レベルの制限]、[中レベルの制限]、または [低レベルの制限] を選択して、対象のユーザー アカウントに対して推奨される設定が自動的に適用されるようにすることができます。または、[カスタム制限] を選択し、Windows SteadyState で作成した各共有ユーザー アカウントに対してカスタマイズされた制限を設定することもできます。

共有コンピュータ上で必要な数の共有ユーザー アカウントを作成し、Windows SteadyState で各ユーザー アカウントの制限をカスタマイズできます。公共の使用環境に多数のユーザー アカウントを作成する必要がある場合は、コンピュータを使用する可能性があるユーザーのレベルごとにアカウントを 1 つ作成し、その後で各アカウントに特定の制限を適用すると、ユーザー アカウントの作成を簡易化できます。たとえば、次のようにユーザーを分類し、ユーザー アカウントを 1 つずつ作成することもできます。

- 成人
- 子供
- 10 代の若者

この例では、成人には高度な技術があり、システム リソースへのアクセスが必要であるという前提で、"成人" ユーザー アカウントには [低レベルの制限] オプションを設定します。"10 代の若者" ユーザー アカウントには [中レベルの制限] オプションを設定することにより、システム設定へのアクセスは禁止し、コンピュータ リソースへのアクセスは許可します。子供のユーザー アカウントには、制限オプションを [高レベルの制限] に設定して共有コンピュータのシステム ファイルを最大限に保護し、外部リソースへのアクセスを制限します。

共有ユーザー プロファイルの設定と制限

[ユーザー設定] ダイアログ ボックスでは、共有ユーザー プロファイルに適用するセッションの制限およびプログラムと機能の制限を構成できます。[ユーザー設定] ダイアログ ボックスには、プロファイルの設定および制限を構成する 4 つのタブがあります。

- 全般
- Windows の制限
- 機能の制限
- ブロックするプログラムのリスト

全般

[全般] タブでは、ユーザー プロファイルのロックおよびセッション タイマ制限の設定を行います。図 3 に、[ユーザー設定] ダイアログ ボックスの [全般] タブを示します。

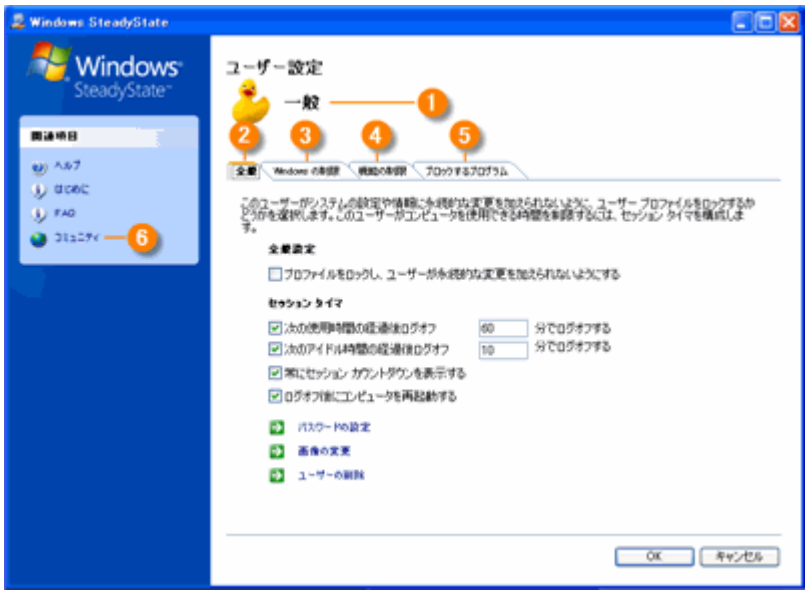

図 3 : [ユーザー設定] ダイアログ ボックスの [全般] タブ

表 4 に、[ユーザー設定] ダイアログ ボックスのユーザー設定とオプションの詳細を示します。

表 4 : [ユーザー設定] ダイアログボックスの設定とオプションの説明

設定とオプション	説明
1. ユーザー	選択したユーザーのユーザー名と画像の表示。
2. 全般	ユーザー プロファイルのロックまたはロック解除。 セッション タイマの設定、パスワードの変更、ユーザー プロファイル画像の変更、選択したユーザー プロファイルの削除。
3. Windows の制限	Windows の制限レベルの設定。[高レベルの制限]、[中レベルの制限]、[低レベルの制限]、[制限なし]、[カスタム制限] があります。 [スタート] メニューと全般的なシステム制限の設定。 ドライブの表示と非表示。

設定とオプション	説明
4. 機能の制限	機能の制限レベルの設定。[高レベルの制限]、[中レベルの制限]、[低レベルの制限]、[制限なし]、[カスタム制限] があります。 特定ユーザーの Internet Explorer® および Microsoft Office の制限の設定。 ユーザーが表示を許可されているホーム ページおよび特定 Web サイトのアドレスの入力。
5. ブロックするプログラム	ユーザーのアクセスをブロックするプログラムの選択、および現在ブロックされているプログラムの表示。 一覧にないプログラムを参照してコンピュータに追加する。
6. その他のサポート	Windows SteadyState のその他のリソースへのリンクの検索。

プロファイルのロック

[全般] タブの [全般の設定] で、[プロファイルをロックし、ユーザーが永続的な変更を加えられないようにする] チェック ボックスをオンにすると、ユーザーが現在のセッションからログオフしたときに、ユーザーによって作成されたキャッシュ ファイルやシステム履歴が削除されます。ユーザー プロファイルをロックして、ユーザーによる共有コンピュータへの永続的な変更を制限することをお勧めします。

ロックされたユーザー プロファイルと Windows ディスク保護には、重要な違いがあります。表 5 に、ロックされたプロファイルと Windows ディスク保護の類似点と相違点を示します。

表 5 : ロックされたプロファイルと Windows ディスク保護の比較

機能	類似点	相違点	適用のタイミング
ロックされているプロファイル	ユーザー プロファイルに対してユーザーが加えた変更を削除します。キャッシュ ファイル、グローバル履歴、および環境設定が消去されて既定の状態に戻ります。	ユーザー プロファイルは、管理者によって構成された既定の状態に戻ります。	ユーザー アカウントのログオフ。

機能	類似点	相違点	適用のタイミング
Windows ディスク保護	プロファイルおよびシステム パーティションに対してユーザーが加えた変更、ユーザーが共有コンピュータ上または別のパーティションやドライブに保存したファイルとデータを削除します。	[再起動時にすべての変更を削除する] を選択すると、システム パーティション全体が管理者によって構成された元の状態に戻ります。	共有コンピュータの再起動。

注： *ユーザー プロファイルがロックされている場合は、ロックされたプロファイルが保護されたシステム パーティションに保存されているか、別のドライブに保存されているかにかかわらず、Windows ディスク保護によって、プロファイルは既定の構成に戻ります。*

恒久的なユーザー プロファイルおよびデータの詳細については、このハンドブックの「専用パーティションへの恒久的なユーザー プロファイルの作成」を参照してください。

セッション タイマ

[全般] タブの [セッション タイマ] では、セッション タイマを構成して、セッションが終了するまでのログオン セッションの期間またはアイドル時間を定義できます。構成するセッション タイマのチェック ボックスをオンにし、テキスト ボックスに期間 (分単位) を入力します。

セッション カウントダウン

[全般] タブの [セッション タイマ] で、[常にセッション カウントダウンを表示する] チェック ボックスをオンにすると、セッションが終了するまでの残り時間をユーザーに知らせる通知を構成できます。この通知は、セッション全体を通じて画面に表示されたままになります。ユーザーは通知ダイアログを移動できますが、最小化またはオフにすることはできません。図 4 に、セッション タイムの通知を示します。

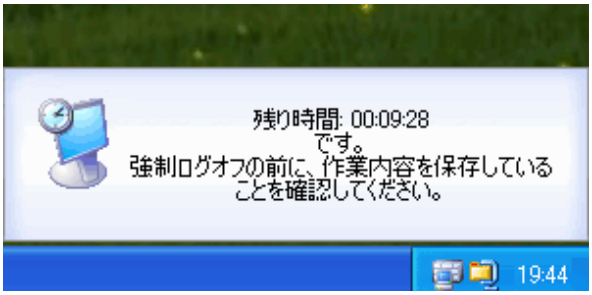

図 4 : セッション タイマの通知

ログオフ後にコンピュータを再起動する

[全般] タブの [セッション タイマ] で、[ログオフ後にコンピュータを再起動する] チェック ボックスをオンにすると、各ユーザー セッションが終了するごとにコンピュータが自動的に再起動するように構成できます。

Windows の制限

[Windows の制限] タブで制限のレベルを設定して、メニューに表示される内容や、ユーザーがアクセスを許可される Windows XP のツールおよび機能を定義できます。

[Windows の制限] タブは、次の部分で構成されています。

- 制限のレベル
- 制限の種類

図 5 に、[Windows の制限] タブを示します。

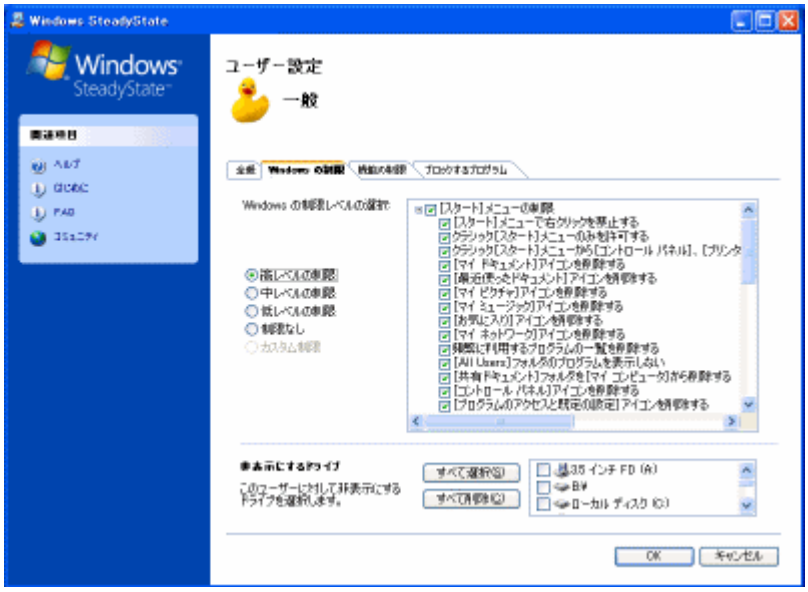

図 5 : [Windows の制限] タブ

[Windows の制限] タブで、[高レベルの制限]、[中レベルの制限]、または [低レベルの制限] を選択すると、該当する種類の制限が自動的に選択されます。[カスタム制限] を選択した場合は、適用する制限の種類を手動で選択できます。Windows の制限は、次のように構成されています。

- **[スタート] メニューの制限** – さまざまなプログラム アイコンや機能が [スタート] メニューに表示されるのを制限できます。[コマンド プロンプト] や [Windows エクスプローラ] などの一部のオプションが [アクセサリ] メニューに表示されますが、これらの項目に制限が設定されている場合、ユーザーが選択するとエラーが表示されます。
- **全般的な制限** – Windows XP では、[スタート] メニューに表示される項目以外にも、多数の追加の機能およびプログラムが提供されており、その中にはユーザーの使用を制限した方が良いものもあります。

非表示にするドライブ

[Windows の制限] タブの [非表示にするドライブ] で、[マイ コンピュータ] に表示されるドライブを選択できます。すべてのドライブを表示または非表示にするオプションを選択するか、プリンタやリムーバブル記憶デバイスなどを含め、ユーザーに公開しない特定のドライブを選択することができます。

機能の制限

[機能の制限] タブでは、プログラム属性へのユーザーのアクセスを制限することで、コンピュータが損傷したり、乱雑になったりするのを防止できます。たとえば、制限を使用して、クリップ オーガナイザへの追加、マクロ メニュー項目の無効化、Microsoft Visual Basic® の実行、システム ツールやその他の管理ツールの実行を禁止できます。機能の制限には、次のものがあります。

- Microsoft Internet Explorer の制限
- Microsoft Office の制限
- ホーム ページ
- 許可される Web アドレス

[機能の制限] タブでは、左側に制限レベルのオプション、右側のリスト ボックスにカテゴリおよび制限のオプションが表示され、[Windows の制限] タブと同様の配置になっています。制限レベルを選択すると、右側にある制限の一覧のオプションが選択された状態になります。

Internet Explorer の制限

[Internet Explorer の制限] では、Internet Explorer の制限を設定して、ユーザーがアクセスできないように属性やメニュー オプションを削除できます。たとえば、[お気に入りの削除] メニュー オプションを選択して、Internet Explorer の [お気に入り] メニューに対する共有ユーザーのアクセスを制限できます。

Microsoft Office の制限

[Microsoft Office の制限] では、Microsoft Office の機能を制限できます。たとえば、共有ユーザーによるマクロの使用を禁止する方法の 1 つとして、[マクロ ショートカット キーを無効にする] と [[ツール] メニューの [マクロ] メニュー項目を無効にする] の両方を選択する方法があります。これらの制限は、[機能の制限] タブの [Microsoft Office の制限] で選択できます。

ホーム ページ

[ホーム ページ] チェック ボックスで、共有ユーザー プロファイルに対して構成するホーム ページの Web アドレスを入力できます。このホーム ページは、共有ユーザーが Internet Explorer を開くたびに表示されます。

注： *[ホームページ] チェック ボックスには、共有ユーザー プロファイルに対して構成するホーム ページの Web アドレスを入力する際、「http:」または「https:」のプロトコル接頭辞を入力できます。*

許可される Web アドレス

[Internet Explorer の制限] の [インターネット アクセスを禁止する (以下の Web サイトは除く)] を選択すると、[許可される Web アドレス] チェック ボックスでユーザー プロファイルに対する Web サイトのアドレスを入力できます。複数の Web アドレスを入力するには、各 Web アドレスをセミコロンで区切ります (たとえば「microsoft.com; msn.com」と入力)。

注： *アクセスするユーザー プロファイルを許可する Web アドレスの入力の際、プロトコル接頭辞の http: または https: を [許可される Web アドレス] ボックスに入力しないでください。*

保護者による制限および高度なインターネット フィルタの詳細については、「Windows Live™ OneCare 家族のための安全設定」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83433 (英語)) を参照してください。

ブロックするプログラム

[ブロックするプログラム] タブでは、ユーザーのアクセスを禁止するソフトウェアを選択できます。

プログラムをブロックするには、左側のリスト ボックスでブロックするプログラムを選択し、2 つのリスト ボックスの中間にある [ブロック] をクリックします。右側の [ブロックするプログラム] ボックスに、選択した項目が表示されます。[検索] ボックスにプログラム名を入力して、プログラムを検索できます。また、[参照] をクリックして一覧にないプログラムを参照することもできます。

プログラムをブロック解除するには、[ブロックするプログラム] ボックスのプログラムを選択し、[削除] をクリックします。すべてのプログラムをブロック解除するには、[すべて削除] をクリックします。

ブロックするプログラムを追加したら、[OK] をクリックします。

共有ユーザー プロファイルのテスト

コンピュータの制限や Windows ディスク保護を構成する前に、作成した共有ユーザー プロファイルをテストして、構成および制限が予定された方法で動作するかどうかを確認します。図 6 は、サンプル共有ユーザー アカウントの [スタート] メニューです。

図 6 : サンプル共有ユーザー アカウントの [スタート] メニュー

共有ユーザー アカウントをテストするには、構成済みの共有ユーザー アカウントでコンピュータにログオンし、以下のことを検証します。

- [スタート] メニューが正しく表示される。
- [スタート] メニューとデスクトップのショートカットが正しく動作する。
- [スタート] メニューに、ブロックしたプログラムが表示されない。
- [スタート] メニュー、デスクトップ、および Internet Explorer に対して構成したユーザーの制限が正しく機能している。
- セッション タイマが構成したとおりに動作する。

コンピュータの制限の構成

コンピュータの制限を構成することで、システム レベルの設定と制限を適用することが可能となり、コンピュータを使用するすべての共有ユーザーのプライバシーとセキュリティを強化できます。

注：*Windows SteadyState コンピュータがドメイン ネットワークに接続されている場合、[コンピュータの制限の設定] のオプションはグループ ポリシーで設定された制限によって使用できなくなる、または更新されることがあります。ドメイン環境で Windows SteadyState コンピュータの制限を設定する方法の詳細については、このハンドブックの「SCTSettings.adm を使用したグループ ポリシー制限の作成」を参照してください。*

ここでは、[コンピュータの制限の設定] ダイアログ ボックスで設定可能なコンピュータの制限について説明します。次のような制限を設定できます。

- プライバシー設定
- セキュリティ設定
- その他の設定

プライバシー設定

プライバシー設定により、共有コンピュータのすべてのユーザーのプライバシーを保護できます。Windows SteadyState の [コンピュータの制限の設定] ダイアログ ボックスの [プライバシー設定] には、以下のオプションがあります。

- **[Windows へのログオン] ダイアログ ボックスにユーザー名を表示しない** – このオプションを選択すると、ユーザーがログオフするとき、[Windows へのログオン] ダイアログ ボックスの [ユーザー名] ボックスが空白のまま表示されます。このオプションを選択しない場合は、最後にログオンしたユーザーの名前が [ユーザー名] ボックスに表示されます。
- **ロックされたユーザー プロファイルまたは移動ユーザー プロファイルがコンピュータ上に見つからない場合、そのログオンを禁止する** – このオプションを Windows SteadyState の [コンピュータの制限の設定] で選択すると、コンピュータ上に既存のプロファイルがないユーザーはログオンできなくなります。

- **以前にこのコンピュータにログオンしたことのあるユーザーに対しては、ロックされたユーザー プロファイルまたは移動ユーザー プロファイルのコピーをキャッシュしない** – このオプションを選択すると、プライバシーの向上とディスク領域の節約ができます。移動ユーザー プロファイルは、ネットワークに接続されたシステム上に格納されたユーザー プロファイルです。Windows SteadyState は、移動ユーザー プロファイルがローカル コンピュータに保存されるのを防止します。こうするとディスク領域の節約になり、個人情報を含むプロファイル ファイルに共有ユーザーがアクセスするのを防止できます。

セキュリティ設定

セキュリティ設定は、ユーザー アクティビティによる障害や破損からコンピュータを保護します。Windows SteadyState の [セキュリティ設定] には、以下のオプションがあります。

- **ようこそ画面から管理者のユーザー名を削除する (一覧にないアカウントにログオンするには Ctrl + Alt + Del を 2 回押す必要があります)** – Windows のようこそ画面には、そのコンピュータに格納されたすべてのユーザー アカウント名の一覧が表示されます。このオプションを選択すると、この画面の一覧から管理者のユーザー名が削除されます。管理者としてログオンするには、**Ctrl + Alt + Del** を 2 回押して通常のログオン画面を開く必要があります。

注：*Windows SteadyState コンピュータがドメイン ネットワークに接続されている場合、この設定は使用できません。*

- **[Windows へのログオン] ダイアログ ボックスとようこそ画面から [シャットダウン] オプションと [オフにする] オプションを削除する** – このオプションを選択すると、[Windows へのログオン] ダイアログ ボックスおよびようこそ画面で、コンピュータのシャットダウンまたは電源を切る操作ができなくなります。
- **Windows による LAN Manager を使用したパスワードの計算と保存を許可しない** – このオプションを選択すると、各パスワードの LanMan ハッシュ (LMHash) 形式を無効にして、格納されたパスワードのセキュリティを強化できます。LMHash は、以前の Windows オペレーティング システムとの下位互換性をサポートするための暗号化メカニズムです。

- **Windows Live ID またはドメインへのログオンに使用されるユーザー名とパスワードを保存しない (コンピュータの再起動が必要です)** – このオプションを選択すると、ユーザーの Windows Live ID のアカウントとドメインの資格情報が Windows XP によって保存されなくなり、ユーザーはセッションを開始するたびにこの情報を入力する必要があります。これはプライバシーを向上し、直前にコンピュータを使用したユーザーの資格情報を使用して他のユーザーがログオンするのを防止します。

注： *このオプションを選択した場合は、Windows を再起動して有効にする必要があります。*

- **ユーザーがドライブ C:¥ にフォルダとファイルを作成することを禁止する** – このオプションを選択すると、システム ドライブのルートにあるアクセス制御リスト (ACL) が変更されてユーザーがファイルやフォルダを作成できなくなります。
- **ユーザーが Internet Explorer から Microsoft Office 文書を開くことを禁止する** – このオプションを選択すると、Microsoft Office の文書がそれぞれのアプリケーションで確実にホストされ、オプションの Microsoft Office ソフトウェアの制限が適切に機能することを確約できます。
- **USB 記憶装置への書き込みアクセスを禁止する (コンピュータの再起動が必要です)** – このオプションを選択すると、ユーザーが USB 記憶装置にファイルやデータを保存できなくなります。

その他の設定

Windows SteadyState では、Windows のようこそ画面を利用してログオン プロセスを簡易化しています。

ようこそ画面を表示する – Windows XP の起動時に、Windows のようこそ画面にコンピュータ上のすべてのユーザー名の一覧が表示され、ユーザーのログオン プロセスが簡易化されます。

注： *Windows SteadyState コンピュータがドメイン ネットワークに接続されている場合、この設定は使用できません。*

ソフトウェア更新のスケジュール

Microsoft Update およびウイルス対策のすべての最新プログラムを保持することは、コンピュータの保護にとって重要な要素です。[ソフトウェア更新のスケジュール] ダイアログ ボックスでは、特定の日時に更新をスケジュールし、任意の間隔で共有コンピュータを更新できます。Windows ディスク保護がオンの場合でも更新のスケジュールおよび更新の永続的な適用が可能であり、後で再起動したときに Microsoft Update の重要な更新プログラムおよびウイルス対策更新プログラムが削除されることはありません。

ここでは、[ソフトウェア更新のスケジュール] ダイアログ ボックスで適用可能な構成および設定について説明します。次のような設定があります。

- 自動更新と手動更新のスケジュール
- 自動更新 (Microsoft Update)、ウイルス対策更新プログラム、またはカスタム スクリプトの選択

更新のスケジュール

[ソフトウェア更新のスケジュール] ダイアログ ボックスの [更新のスケジュール] で、自動更新または手動更新を選択できます。更新プログラムを Windows SteadyState で自動的にダウンロードおよびインストールする場合、[更新の選択] オプションを使用して実行する更新プログラムの種類を選択できます。Windows SteadyState では、Windows XP で Microsoft Update、Windows Update、または Windows Server Update Services のどれが現在使用されているかに応じて、これらが自動的にインストールされます。

更新プログラムを自動的にダウンロードしてインストールする

[更新のスケジュール] で、[更新プログラムの自動ダウンロードとインストールに Windows SteadyState を使用する] を選択すると、自動更新の間隔を指定できます。更新プログラムを自動的にインストールする間隔は、毎日または毎週のどちらかの特定の時間を指定できます。

注： *Windows SteadyState では、Microsoft の重要な更新プログラムのみを自動的にインストールします。推奨される更新プログラム、オプションの更新プログラム、ドライバの更新プログラム、独自の使用許諾契約を持つ可能性がある特殊な更新プログラムは、自動的にインストールされません。Microsoft Update で、適用可能な更新プログラムを定期的に確認し、任意の更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールしたら、[ハードディスクの保護] ダイアログ ボックスの [すべての変更を永続的に保持する] がオンになっていることを確認してください。詳細については、このハンドブックの「ハード ディスクの保護」を参照してください。*

更新プログラムのインストールのため、Windows ディスク保護が有効な状態で [ソフトウェア更新のスケジュール] の自動更新が動作するようにするには、次の操作を行います。

- アクティブなユーザーをログオフします。
- コンピュータを再起動して、Windows ディスク保護によってディスクへの変更が消去されるようにします。
- 更新処理の実行中に無断でディスクが変更されないように共有ユーザー アカウントを無効にします。
- Windows ディスク保護の [すべての変更を永続的に保持する] をオンにして、次回コンピュータを再起動したときに更新プログラムが削除されないようにします。
- 更新プログラムをダウンロードしてインストールします。
- コンピュータを再起動します。
- Windows ディスク保護の設定を [再起動時にすべての変更を削除する] に戻し、更新プログラムのインストール後は共有コンピュータのセキュリティが強化されるようにします。

警告： *スケジュールされた更新の開始時に、コンピュータにログオンしているユーザーは直ちにログオフされます。スケジュールされた更新プログラムの実行中は、管理者または管理者特権を持つユーザー以外はログオンできません。更新プログラムの実行中は、ログオンしないことをお勧めします。ログオンしても、更新処理が完了するまで、Windows SteadyState で行った構成を変更することはできません。*

Windows では、このハンドブックの「セキュリティ プログラムの更新」に挙げられているサードパーティ製ウイルス対策ソフトウェア プログラムは検出されて自動的に更新されます。

ただし、ソフトウェア バージョンのアップグレードの中には、サブスクリプション ベースでウイルス対策の更新が実行されるものがあります。ウイルス対策バージョンのアップグレードの一部では、インストール処理または更新処理中にユーザーや管理者の操作が必要とされます。必要とされる操作は、アップグレードの完了前のサービス条項契約やソフトウェア使用許諾契約への同意などです。

注意： *スケジュールされた Windows SteadyState 自動更新処理中にウイルス対策ソフトウェア プログラムなどのソフトウェア プログラムでユーザの操作が必要な場合、更新は正常終了しないことがあります。*

ウイルス対策ソフトウェアのバージョンの変更時に更新プログラムが正常にインストールされない場合、そのソフトウェアの更新は手動で実行し、新しいバージョンのインストールが確実に行われるようにする必要があります。

Windows SteadyState のスケジュールされた自動更新を選択した後も、次のように操作して手動での更新を実行できます。

- [更新プログラムの自動ダウンロードとインストールに Windows SteadyState を使用しない] を選択します。
- 更新プログラムをダウンロードしてインストールします。更新プログラムを手動でインストールする方法については、このハンドブックの「更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールする」を参照してください。
- [更新プログラムを自動的にダウンロードしてインストールする] を選択してスケジュールを元に戻します。

サブスクリプションが必要なサードパーティのソフトウェアの詳細については、そのソフトウェア アプリケーションの製品マニュアルまたは Web サイトを参照してください。

更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールする

必須ではありませんが、更新プログラムのインストールは自動的に行うことをお勧めします。更新プログラムを手動でインストールする必要がある場合は、[更新プログラムの自動ダウンロードとインストールに Windows SteadyState を使用しない] を選択して実行できます。このオプションを選択すると、Windows SteadyState で管理される共有コンピュータの自動更新がオフになります。さらに、更新プログラムのダウンロードとインストールを手動で行う際は、[ハードディスクの保護] ダイアログ ボックスの [すべての変更を永続的に保持する] を選択する必要があります。これを選択しないと、更新プログラムはコンピュータの再起動時に消去されます。次に、手動による更新プログラムのインストールが必要になるいくつかの例を示します。

- 更新プログラムを自発的にインストールする場合。
- ユーザーの操作が必要な更新プログラムをインストールする場合 (ユーザーが条項に同意することを指定する必要があるユーザーの同意を伴う更新プログラムなど)。
- Microsoft Web サイト (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83424)。
- Microsoft では、重要な更新プログラム パッケージに含まれていない拡張機能や推奨される更新プログラムを頻繁に提供しています。

注意：Windows ディスク保護がオンで [再起動時にすべての変更を削除する] が選択されている場合、セッション中に実行した手動による更新はすべて失われます。

► Windows SteadyState で更新プログラムを手動でインストールするには

1. Windows SteadyState 管理者としてログオンします。
2. [Windows SteadyState] メイン ダイアログ ボックスの [コンピュータ設定] で、[ハード ディスクの保護] をクリックします。
3. [すべての変更を永続的に保持する] を選択します。
4. 共有コンピュータに目的のソフトウェア更新プログラムをインストールします。インストールする更新プログラムの詳細情報については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。
5. 更新プログラムの手動でのインストール後、共有コンピュータを再起動します。
6. 共有コンピュータのセキュリティを強化するため、ソフトウェア更新プログラムの手動でのインストール後は、[ハード ディスクの保護] ダイアログ ボックスの [再起動時にすべての変更を削除する] を選択し、共有コンピュータに以後加えられる変更が保存されないようにします。

   ソフトウェアおよびウイルス対策プログラムを手動で更新する必要がある際は、毎回これらの手順を実行します。

更新プログラムの選択

重要なソフトウェア更新プログラムには、Microsoft 更新プログラム、セキュリティ更新プログラム、コンピュータにインストールされたアプリケーションに必要なカスタム更新プログラムがあります。

更新プログラムの選択

Windows SteadyState を使用して更新プログラムをスケジュールされた時間に自動的にインストールする場合、これに含める更新プログラムを [更新の選択] から選択できます。[更新プログラムの自動ダウンロードとインストールに Windows SteadyState を使用する] を選択すると、Windows SteadyState では、Windows XP で Microsoft Update、Windows Update、または Windows Server Update Services のどれが現在使用されているかに応じて、これらが自動的にインストールされます。

注：*Windows SteadyState では、Microsoft の重要な更新プログラムのみを自動的にインストールします。推奨される更新プログラム、オプションの更新プログラム、ドライバの更新プログラム、独自の使用許諾契約を持つ可能性がある特殊な更新プログラムは、自動的にインストールされません。Microsoft Update で、適用可能な更新プログラムを定期的に確認し、任意の更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールしたら、[ハードディスクの保護] ダイアログ ボックスの [すべての変更を永続的に保持する] がオンになっていることを確認してください。詳細については、このハンドブックの「更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールする」を参照してください。*

セキュリティ プログラムの更新

Windows SteadyState を使用したセキュリティ プログラム自動更新は、次の 2 種類のうち、いずれかの方法で実行できます。

- Windows SteadyState のスケジュールを設定し、Windows SteadyState で検出されて [セキュリティ プログラムの更新] ボックスに表示されるセキュリティ プログラムが自動更新されるようにします。
- カスタム スクリプトを記述し、スケジュールされた日時に自動更新する更新プログラムに適用します。

ウイルス対策製品またはセキュリティ製品が Windows SteadyState による更新可能な製品として認識される場合は、セキュリティ プログラムの更新を重要な更新プログラムの処理の一部として自動的に実行することが可能です。このハンドブックの発行時現在、Windows SteadyState は、以下のセキュリティ製品を検出でき、更新用のスクリプトが組み込まれています。

- Computer Associates eTrust 7.0
- McAfee VirusScan
- Windows Defender
- TrendMicro 7.0

この機能は、他のウイルス対策製品またはセキュリティ製品と連動させることができます。上記以外のウイルス対策プログラムを使用する場合、該当するウイルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照して、署名更新スクリプトを作成してください。署名更新スクリプトは、手動で実行することもできます。更新プログラムを手動でインストールする方法の詳細については、このハンドブックの「更新プログラムを手動でダウンロードしてインストールする」を参照してください。

カスタム更新

カスタム更新スクリプトのスケジュールを設定するには、[参照] をクリックしてスクリプトを検索します。テキスト ウィンドウに、カスタム スクリプトが表示されます。カスタム スクリプトは、[ソフトウェア更新のスケジュール] 機能を実行してテストする必要があります。

カスタム スクリプトは、カスタム スクリプト内のすべてのアクションが完了した後に復帰するように作成する必要があります。たとえば、スクリプトが別のプロセスを起動してその直後に復帰した場合、カスタム スクリプト プロセスの処理が [ソフトウェア更新のスケジュール] 機能で認識されず、スクリプトが完了したと見なされる場合があります。この結果、ファイルが部分的に更新されたり、カスタム スクリプトでエラーが発生する可能性があります。

スケジュールされた更新中、Windows SteadyState でのカスタム スクリプトの更新に任意のリソース (有効なネットワーク接続など) が求められた場合、このリソースは更新時に使用できる状態となっている必要があります。

カスタム スクリプトの書き込み許可は、そのコンピュータの Administrators グループ内のユーザーにのみ与えられます。ローカル マシン アカウントおよびその他のユーザー アカウントには、カスタム スクリプトの書き込み許可はありません。

Windows SteadyState で自動的にスケジュールされたカスタム スクリプトの更新は、Microsoft Update の更新プログラムおよびウイルス対策更新プログラムの実行後に実行されます。

Windows SteadyState では、.exe、.vbs、.cmd、および .bat の各ファイル形式のカスタム スクリプトがサポートされます。

重要：*[ソフトウェア更新のスケジュール] 機能では、ユーザーの操作を必要としないカスタム スクリプトのみ使用できます。*

警告：*スケジュールされた更新の開始時に、コンピュータにログオンしているユーザーは直ちにログオフされます。スケジュールされた更新プログラムの実行中は、管理者または管理者特権を持つユーザー以外はログオンできません。更新プログラムの実行中は、ログオンしないことをお勧めします。ログオンしても、更新処理が完了するまで、Windows SteadyState で行った構成を変更することはできません。*

ハード ディスクの保護

Windows ディスク保護は、Windows XP がインストールされているパーティション上のシステム設定およびシステム データを永続的な変更から保護します。

セッション中にユーザーが実行するアクティビティによって、オペレーティング システム パーティションにさまざまな変更が生じます。プログラム ファイルは作成、変更、削除されます。また、オペレーティング システムの通常の動作の一部として、システム情報が更新されます。共有コンピュータの目標は、すべてのユーザーに対して統一された環境を作成することです。ログオンするユーザーは、他のすべてのユーザーと同じ環境を経験する必要があり、ユーザーによるシステムの変更や破損を防止しなければなりません。Windows ディスク保護は、設定した特定の間隔でオペレーティング システム パーティションに対するすべての変更を消去します。

Windows ディスク保護をオンにする場合は、ディスクの保護レベルを選択して、保護されたシステム ドライブへの変更を消去する間隔、および消去するかどうかを決定できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- Windows ディスク保護のオンとオフの切り替え、およびインストール
- Windows ディスク保護のキャッシュ ファイルの属性と構成
- 共有コンピュータのディスク保護レベルの選択

Windows ディスク保護をオフにする

Windows SteadyState を最初にインストールすると、Windows ディスク保護は既定によりオフになっており、システム ドライブのハード ディスク領域は使用されません。Windows ディスク保護をオンにすると、オペレーティング システムとプログラム ファイルのすべての変更を保存するキャッシュ ファイルが作成されます。システム ドライブ上のかなりの領域が作成されるキャッシュ ファイルの予約領域となります。

Windows ディスク保護は、使用する準備ができるまでオフのままにしておきます。Windows ディスク保護をインストールしてオンにした後、Windows ディスク保護をオフにすると、インストール時に作成されたキャッシュ ファイルが削除されます。Windows ディスク保護をオフにすると、この保護機能は事実上アンインストールされます。

Windows ディスク保護をオンにする

Windows ディスク保護をオンにすると、オペレーティング システムやプログラム ディレクトリに対するすべての変更を保持するためのキャッシュ ファイルが作成されます。システム ドライブの保護パーティション上に作成された履歴、保存されたファイル、およびログのすべてがこのキャッシュ ファイルに格納されます。Windows ディスク保護は、指定された間隔でキャッシュの内容を削除して Windows ディスク保護を最初にオンにしたときの状態にシステムを復元します。

Windows ディスク保護をインストールしてオンにする

Windows ディスク保護をインストールしてオンにする前に、ハード ディスクを最適化しておくことは重要なことです。プレインストール時にこの操作を実行しなかった場合は、この時点でシステム ドライブとハード ディスクを最適化する必要があります。断片化されたハード ディスクに Windows ディスク保護をインストールし、オンにすると、Windows ディスク保護のキャッシュの作成に失敗する可能性があります。

► Windows ディスク保護をインストールしてオンにするには

1. SteadyState 管理者としてログオンします。
2. [Windows SteadyState] メイン ダイアログ ボックスの [コンピュータ設定] で、[ハード ディスクの保護] をクリックします。
3. Windows ディスク保護をオンにするには、[オン] を選択します。
4. [はい] をクリックして、Windows ディスク保護のインストールを続行します。

Windows ディスク保護のインストール中に、ハード ディスクのサイズが計算され、ハード ディスクの空き領域の 50% (最大 40 GB) に等しいサイズのキャッシュ ファイルが作成されます。たとえば、ハード ディスクが 40 GB の場合、オペレーティング システムとプログラムの使用領域が 10 GB のときの空き領域は 30 GB です。

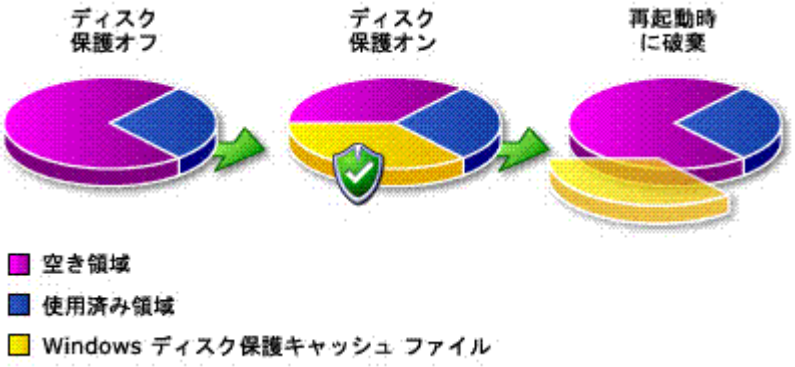

図 7 : Windows ディスク保護がオンのときのキャッシュ ファイルの図

キャッシュの消去

Windows ディスク保護がオンの場合は、ハード ディスクとプログラム ファイルに対するすべての変更が消去され、指定した間隔でキャッシュ ファイルが空になります。ユーザーがコンピュータを使用すると、オペレーティング システムとプログラム ファイルに対するすべての変更がキャッシュ ファイルに書き込まれます。キャッシュ ファイルの使用領域が 70% に達すると、警告メッセージが表示されます。

Windows ディスク保護では、ディスクの空き領域の 50% (最大 40 GB) に相当するキャッシュ ファイルが作成され、共有ユーザーが使用するのに十分なディスク領域が提供されます。また、警告が表示された場合でも、キャッシュを手動で消去できます。

► キャッシュを消去するには

1. 共有ユーザーのファイルをリムーバブル記憶デバイスに保存し (可能な場合)、コンピュータからログオフさせます。
2. 管理者としてログオンします。
3. Windows SteadyState を開きます。
4. [ハード ディスクの保護] をクリックします。
5. [再起動時にすべての変更を削除する] が選択されていることを確認します。
6. コンピュータを再起動します。

これでキャッシュ ファイルが消去されました。

キャッシュ ファイルのサイズ変更

Windows ディスク保護は、キャッシュ ファイルの作成時に、ハード ディスクの空き領域の 50% (最大 40 GB) を要求します。キャッシュ ファイルは、アクティビティを実行するのに十分なハード ディスク領域をユーザーに提供するために、最大サイズのままにしておくことをお勧めします。ただし、必要に応じてキャッシュ サイズを変更できます。

キャッシュ サイズを決定するときは、さまざまな条件を考慮する必要があります。条件によっては、再起動までにコンピュータのキャッシュ ファイルがいっぱいになる可能性が高くなります。次のような対策をとると、キャッシュがいっぱいになるリスクを最小限に抑えることができます。

- **再起動時にすべての変更を削除する** – コンピュータを頻繁に再起動する場合は、再起動ごとにすべての変更を削除することが有効な手段となります。
- **少数のユーザーに提供する** – 通常、ユーザー数が少なければ、システムやプログラム ファイルに対する変更も少なくなります。ただし、1 人のユーザーが大量のハード ディスク領域を要求するアクションを実行する場合があるので注意が必要です。
- **高レベルの制限を設定する** – 高レベルの制限を設定すると、ユーザーは大量のハード ディスク領域を要求するアクティビティを実行できなくなります。ファイルのダウンロードやハード ディスクへのファイルの保存などのアクティビティは、ディスクを多く占有する可能性があります。これらのアクティビティは、[ユーザー設定] ダイアログ ボックスまたは [コンピュータの制限の設定] ダイアログ ボックスで制限できます。

▶ キャッシュ ファイルのサイズを調整するには

1. 管理者としてログオンします。
2. Windows SteadyState を開きます。
3. [ハード ディスクの保護] をクリックします。
4. [すべての変更を永続的に保持する] オプションがオンになっていることを確認します。
5. [キャッシュ ファイルのサイズを変更する] をクリックします。
6. キャッシュ サイズ スライダ バーのスライダつまみを調節してキャッシュ ファイルのサイズを増減し、[OK] をクリックします。

注： *Windows ディスク保護のキャッシュ ファイルは最小 2 GB から最大ハード ディスクの空き領域の 50% まで調節できます。*

7. コンピュータを再起動し、ハード ディスクへのキャッシュ ファイルの変更を保存します。
8. ハード ディスクが共有ユーザーに以後変更されないようにするには、[ハード ディスクの保護] ダイアログ ボックスの [再起動時にすべての変更を削除する] が選択されていることを確認します。

注： *キャッシュ ファイルが大きいほど、Windows ディスク保護でのキャッシュ ファイルの作成に時間がかかります。*

Windows ディスク保護のレベル

ディスクの保護レベルの選択では、Windows ディスク保護がハード ディスクへの変更を消去する間隔、または消去するかどうかを定義します。選択する保護レベルは、コンピュータの使用方法や、ユーザーがわずかの間でもデータを保存したいかどうかによって決まります。次のオプションがあります。

- 再起動時にすべての変更を削除する
- 一時的に変更を保持する
- すべての変更を永続的に保持する

再起動時にすべての変更を削除する

共有ユーザーがコンピュータを使用すると、オペレーティング システムとプログラム ファイルに対する変更がキャッシュ ファイルに書き込まれます。その結果、コンピュータの稼働時間が長いほど、大きなキャッシュ ファイルが必要になります。[再起動時にすべての変更を削除する] を選択し、コンピュータを毎日再起動することをお勧めします。再起動を頻繁に行うと、小さいキャッシュ サイズで済みます。

[ユーザー設定] ダイアログ ボックスでは、共有ユーザー プロファイルを使用しているユーザーがログオフしたときにコンピュータを再起動するオプションを提供しています。このオプションをすべての共有ユーザー プロファイルで選択し、[ハード ディスクの保護] ダイアログ ボックスで [再起動時にすべての変更を削除する] を選択すると、すべてのユーザーに同じユーザー エクスペリエンスを提供できます。ユーザーのログオフごとに再起動するオプションを選択しない場合は、コンピュータを頻繁に再起動して、キャッシュ ファイル内に集められたすべての変更を消去することをお勧めします。

一時的に変更を保持する

ユーザーのファイルやデータを指定した期間だけ保持することができます。たとえば、あるプロジェクトの作業で 2 週間だけプロジェクト リサーチ ファイルへのアクセスが必要なユーザーがいるとします。この場合は、[一時的に変更を保持する] を選択し、日付と期間を設定します。Windows ディスク保護は、指定された日時になるまで、コンピュータの再起動時に変更を消去しません。

指定した日時になると、ユーザーに警告メッセージが表示され、次回のコンピュータの再起動時にハード ディスクからすべての変更が消去されることが通知されます。このメッセージにより、ユーザーがコンピュータをシャットダウンする前にファイルをリムーバブル記憶デバイスに保存できます。

すべての変更を永続的に保持する

Windows ディスク保護をオンにし、後でオフにすると、キャッシュ ファイルが削除されて再び作成するのに時間がかかります。修正プログラム、更新プログラム、または新しいプログラムをインストールするときは、[すべての変更を永続的に保持する] を選択すると、変更が失われません。このオプションが選択されている間に実行されたアクションは、Windows ディスク保護によって削除されません。このオプションを選択してもキャッシュ ファイルは残っているため、Windows ディスク保護をオンにするための時間のかかるプロセスを再実行せずに、すぐに他の 2 つのいずれかのオプションに戻すことができます。

注： *再起動時にユーザーの変更を保持する必要がある場合は、オペレーティング システム パーティション以外のパーティションにユーザーのプロファイルを作成することによって、ユーザーを Windows ディスク保護から除外できます。*

たとえば、Windows XP を C ドライブにインストールした場合は、ドライブ D に格納するようにユーザー プロファイルを構成できます。Windows SteadyState から実行するすべてのユーザーの制限はそのまま適用されますが、そのユーザーのデータは Windows ディスク保護によって削除されません。ユーザー プロファイルを代替ドライブに作成する場合は、プロファイルをロックしないでください。プロファイルをロックすると、格納場所を問わず、プロファイルの変更が削除されます。ロックされたユーザー プロファイルの詳細については、このハンドブックの「プロファイルのロック」を参照してください。

ユーザー プロファイルのエクスポートとインポート

共有コンピュータ上の共有ユーザー プロファイルの作成が完了したら、構成したユーザー プロファイルをエクスポートして、Windows SteadyState がインストールされた別のコンピュータにインポートできます。Windows SteadyState のエクスポートとインポート機能を使用すると、すべての共有コンピュータに統一された共有ユーザー プロファイルを簡単に提供できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- ユーザー プロファイルのエクスポート
- ユーザー プロファイルのインポート

ユーザー プロファイルのエクスポート

エクスポート機能を使用すると、すべてが構成された共有ユーザー プロファイルを Windows SteadyState を実行している別のコンピュータにエクスポートできます。

▶ ユーザー プロファイルをエクスポートするには

1. [ユーザーのエクスポート] をクリックします。
2. [ユーザーのエクスポート] ダイアログ ボックスの [ユーザー名] ボックスの一覧で、エクスポートするユーザー プロファイルを選択します。
3. プロファイルを保存する場所を選択します。[ファイル名] ボックスに、拡張子 .ssu の付いた共有ユーザー プロファイル名が表示されます。
4. [保存] をクリックします。選択した場所に、共有ユーザー プロファイルが正常にエクスポートされたことを通知するメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。

   エクスポートするユーザー プロファイルごとに、この手順のステップ 1 ～ 4 を繰り返します。

これですべてのユーザー プロファイルが保存され、この保存場所から Windows SteadyState を実行している共有コンピュータにユーザー プロファイルをインポートできます。

ユーザー プロファイルのインポート

共有ユーザー プロファイルのエクスポートが完了したら、インポート機能を使用して、Windows SteadyState を実行している共有コンピュータにインポートできます。

注： *共有ユーザー プロファイルをインポートする前に、Windows ディスク保護の [すべての変更を永続的に保持する] がオンであることを確認してください。オンでないと、コンピュータの再起動時に Windows ディスク保護により削除されます。*

► ユーザー プロファイルをインポートするには

1. リムーバブル記憶デバイスにユーザー プロファイルをエクスポートした場合は、記憶デバイスを適切なドライブまたは USB ポートに挿入します。
2. Windows SteadyState を開きます。
3. [ユーザーのインポート] をクリックします。
4. [ユーザーのインポート] ダイアログ ボックスで、エクスポートしたユーザー プロファイルが保存されている場所を選択します。
5. [ユーザーのインポート] ダイアログ ボックスに、共有ユーザー プロファイルのファイル名が表示されます。[ファイル名] ボックスに、拡張子 .ssu の付いた共有ユーザー プロファイル名が表示されます。共有ユーザー プロファイルを選択し、[開く] をクリックします。
6. [パスワード] ボックスに、共有ユーザー プロファイルのパスワードを入力します。ユーザー名は、[ユーザー名] ボックスに既に表示されています。
7. [パスワード] ボックスと [パスワードの確認入力] ボックスに、ユーザーのパスワードを入力します。Windows XP のパスワード ポリシー要件を満たした任意のパスワードを入力できます。ただし、管理の簡易化のため、環境内のすべての共有コンピュータで一貫性のあるパスワードを使用することをお勧めします。[OK] をクリックします。

共有ユーザー プロファイルが正常にインポートされたことを通知するメッセージが表示されます。この共有ユーザー プロファイルのユーザー名は、[Windows SteadyState] メイン ダイアログ ボックスの [ユーザー設定] に表示されます。

高度な技術を持つ管理者向けのシナリオ

ここでは、Windows SteadyState を使用して共有コンピュータ環境を管理する場合によく発生する高度なシナリオについて説明します。ここで取り扱う技術は、Windows XP の構成と管理について高度な専門技術を持つ経験豊富な Windows SteadyState 管理者を対象にしています。

Windows SteadyState では、ユーザーのログオフ後、ユーザー プロファイルまたはユーザー データを保持するように共有コンピュータを構成できます。永続的なユーザー データを格納するには、次の 3 つの方法があります。

- **マイ ドキュメント フォルダを USB ドライブまたはリモート ネットワーク ドライブにリダイレクトする** – ユーザーは、Windows SteadyState 管理者が指定したリモート ドライブにデータを保存できます。ユーザー データの保存先を変更する前に、共有ユーザーがリモート ドライブにアクセスできないようにする制限をすべて削除する必要があります。
- **別のパーティションに恒久的なユーザー プロファイルを作成する** – ユーザー プロファイルおよびユーザー データを別のパーティションに作成またはリダイレクトします。この方法で恒久的なユーザー プロファイルを作成すると、ユーザーは前回と同じ設定で保存したファイルを再び開くことができるうえ、共有コンピュータのシステム ファイルも保護できます。
- **すべてのアカウントの恒久的なユーザー プロファイルを作成する** – すべてのユーザー アカウントのユーザー プロファイルを、Windows ディスク保護の影響を受けない別のパーティションに作成します。この方法を使用する場合は、ユーザー プロファイルの既定の場所が Windows ディスク保護によって保護されるパーティション以外になるように、コンピュータのオペレーティング システムのインストールをカスタマイズする必要があります。

マイ ドキュメント フォルダのリダイレクト

既定では、ユーザー プロファイルに関連付けられたマイ ドキュメント フォルダにユーザーのデータが保存されます。Windows XP には、マイ ドキュメント フォルダを別の場所にリダイレクトする機能があります。

Windows ディスク保護を使用するが、ユーザーがユーザー プロファイルにログオンしたときに常に同じ場所にドキュメントを保存できるようにしたい場合は、マイ ドキュメント フォルダをリダイレクトして、別のパーティション、USB ドライブなどのリムーバブル ドライブ、またはマップされたネットワーク ドライブにユーザーのデータを保存できるようにします。別のパーティションにデータを保存する場合は、Windows ディスク保護によって保護されるパーティションとは区別する必要があります。

マイ ドキュメント フォルダを別の場所にリダイレクトする前に、ユーザー データのリダイレクト用に Windows SteadyState 環境を適切に構成する必要があります。

▶ ユーザー データのリダイレクトに対応した Windows SteadyState を構成するには

1. コンピュータを再起動して、最近のディスクの変更を消去します。
2. 共有コンピュータにログオンし、Windows SteadyState を起動します。
3. [ハード ディスクの保護] をクリックし、Windows ディスク保護がオンであること、および [すべての変更を永続的に保持する] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
4. [ユーザー設定] で、マイ ドキュメント フォルダをリダイレクトするユーザー プロファイルをクリックします。
5. ユーザー プロファイルのすべての制限をオフにします。
6. コンピュータを再起動して、Windows ディスク保護の変更を保存します。

▶ マイ ドキュメント フォルダをリダイレクトするには

1. マイ ドキュメント フォルダをリダイレクトするユーザー プロファイルにログオンします。

注： *ユーザー データを USB ドライブにリダイレクトする場合は、ステップ 2 の手順に従います。別のパーティションまたはネットワーク ドライブにユーザー データをリダイレクトする場合は、ステップ 3 に進みます。*

2. ユーザー データを USB ドライブに保存する場合は、USB ドライブを共有コンピュータの USB ポートに挿入します。
3. [スタート] ボタンをクリックし、[マイ ドキュメント] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
4. [マイ ドキュメントのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[移動] をクリックします。
5. [移動先の選択] ダイアログ ボックスで、ユーザー データを保存するドライブを選択し、[OK] をクリックします。
6. [マイ ドキュメントのプロパティ] ダイアログ ボックスで、[OK] をクリックします。
7. [ドキュメントの移動] ダイアログ ボックスで、ドキュメントを移動するには [はい]、元の場所に既存ドキュメントを残す場合は [いいえ] をクリックします。

8. ユーザー プロファイルからログオフし、Windows SteadyState 管理者としてログオンします。ユーザー データのリダイレクト用に Windows SteadyState を構成したときにいずれかのユーザー制限をオフにした場合は、この時点で制限を再設定します。
9. コンピュータを再起動して、Windows ディスク保護の変更を保存します。
10. 管理者としてログオンします。
11. [ハード ディスクの保護] をクリックし、Windows ディスク保護がオンであること、および [再起動時にすべての変更を削除する] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。

別のパーティションに恒久的な ユーザー プロファイルを作成する

ログオン セッション中にユーザーが行った個人用設定および設定に対する変更を永続的に保存する場合があります。ロック解除されたユーザー プロファイルを Windows ディスク保護により保護されたパーティションとは別のパーティションに作成すると、ユーザーがセッション中に行うことを許可されている環境設定は共有コンピュータのログオフ時に消去されません。

ユーザー プロファイルを作成するとき、常にすべてのアカウントのすべてのユーザー プロファイルを別のパーティションに作成する方法の詳細については、このハンドブックの「すべてのアカウントの恒久的なユーザー プロファイルの作成」を参照してください。

注： *複数のパーティションを持つドライブ上に Windows SteadyState がインストールされている場合、Windows SteadyState が存在するパーティションが保護されたシステム パーティションです。Windows SteadyState のインストール後に別のパーティションをセットアップする場合は、ディスク パーティション ソフトウェアを実行する前に、ハード ドライブを最適化する必要があります。Windows SteadyState がインストールされた共有コンピュータ上でディスク パーティション ソフトウェアを実行する場合は、Windows ディスク保護によって作成されたキャッシュ ファイルの損傷を防ぐために、Windows ディスク保護をオフにしてからドライブの最適化を実行してください。*

Windows SteadyState をインストールする前に、ハード ディスク ドライブを最適化し、別のパーティションが必要な場合は、インストールする前にセットアップしておくことをお勧めします。

► 別のパーティションにユーザー プロファイルを作成するには

1. 管理者としてログオンします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントし、[Windows SteadyState] をクリックします。
3. [ユーザー設定] で、[新しいユーザーの追加] をクリックします。
4. [ユーザー名] ボックスに、作成するプロファイルのユーザー名を入力します。

5. [パスワード] ボックスに、ユーザー アカウントのパスワードを入力します。選択したパスワードが、パスワード ポリシー要件を満たしていることを確認します。[パスワードの確認入力] ボックスに、パスワードを入力します。
6. [ユーザーの場所] ボックスで、新しいユーザー プロファイルを保存するドライブを選択し、[OK] をクリックします。

Windows ディスク保護で保護されたパーティションとは別のパーティションにユーザー プロファイルを作成すると、Windows SteadyState 管理者がユーザー プロファイルを削除するまで、ユーザー プロファイルは保護されていないパーティションに残ります。後でこのユーザー プロファイルを永続化する必要がなくなった場合でも、保護されたユーザー プロファイルを別の Windows パーティションにコピーまたは移動することはできません。Windows ディスク保護により保護されたパーティションに同じユーザー プロファイルを格納して、ユーザーのログオフ時またはコンピュータの再起動時にユーザーが行った変更を消去する場合は、制限が指定された新しいプロファイルを保護されたパーティションに作成する必要があります。

► 恒久的なユーザー プロファイルを削除するには

1. [ユーザー設定] で、削除するユーザー プロファイルを選択します。
2. [ユーザーの削除] をクリックします。ユーザーのアカウントを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。このユーザー アカウントを削除する場合は、[OK] をクリックします。

ユーザー アカウントを削除した後、任意のパーティションまたは保護された Windows パーティションにユーザー プロファイルを再度作成できます。Windows パーティションに作成されたユーザー プロファイルは恒久的ではなく、ユーザーの環境への変更は保存されないことに注意してください。

すべてのアカウントの恒久的なユーザー プロファイルの作成

すべてのアカウントに作成するすべてのユーザー プロファイルを、Windows ディスク保護の影響を受けないパーティションに配置するには、ユーザー プロファイルの既定の場所が Windows ディスク保護により保護されたパーティション以外になるように、コンピュータのオペレーティング システムのインストールをカスタマイズする必要があります。

すべてのユーザー アカウントの既定の場所を変更する場合、Windows XP のインストール時に変更する方法のみがサポートされています。また、この変更を行うには、Windows のインストールを自動化する特殊な応答ファイルを使用する必要があります。この方法によって、Default User プロファイルと All Users プロファイルを含

め、すべてのユーザー プロファイルの保存先が変更されます。こうして保存先を変更すると、プロファイルが別のパーティションに自動的に作成されるようになり、Windows SteadyState でユーザー プロファイルを作成するときのユーザー プロファイルの既定のシステム ドライブの場所がオーバーライドされます。

応答ファイルは、インストール時に発生する一部またはすべてのクエリに対する応答を記述したテキスト ファイルです。Unattend.txt という応答ファイルを作成しておけば、必要に応じて任意の数のコンピュータに適用できます。また、スクリプトに含めることにより、複数のコンピュータのインストール処理を自動化できます。

Windows XP の無人インストール用に応答ファイルを作成する最も簡単な方法は、Windows セットアップ マネージャを使用することです。Windows セットアップ マネージャは、応答ファイルを作成するためのウィザードによるインターフェイスを提供する展開ツールです。セットアップ マネージャを使用したインストールの自動化の詳細については、『Windows XP リソース キット』の「インストールの自動化とカスタマイズ」を参照してください。セットアップ マネージャを使用して作成する応答ファイルには、タイム ゾーンやネットワーク設定などの情報も記述できます。

応答ファイルを作成した後、次のコマンドを入力してユーザー プロファイルの既定の保存先を変更できます。

```
   [GuiUNattended]
ProfilesDir = drive:¥foldername
```

個人ユーザーと管理者アカウントのカスタマイズ

このハンドブックの「共有ユーザー プロファイルの構成」で説明したように、共有ユーザー アカウントのプロファイルを制限して、共有コンピュータに対するユーザーのアクションを制限することをお勧めします。管理者は、共有ユーザー アカウントを使用して、管理ツールや管理者特権にユーザーがアクセスできないようにすることで、ユーザーによる共有コンピュータのオペレーティング システムやインストール済みプログラムへの不要な変更を防止できます。

共有コンピュータへのアクセス権の拡張が必要となるようなアプリケーションの実行をユーザーに許可する場合もあります。

制限付き共有管理者アカウントの作成

Windows XP で動作するように設計されていないアプリケーションを実行するには、インターネット ベースおよびネットワーク ベースのマルチプレイヤー ゲームなどの非標準ソフトウェアを運用するための制限付き共有管理者アカウントを作成します。また、一部の旧式の教育プログラムは、制限された共有ユーザー プロファイルを持つ通常の Windows SteadyState ユーザー アカウントではアクセスできない場合があります。これらのプログラムにアクセスするには、管理者のアクセス権が必要になります。

通常の Windows SteadyState 共有ユーザー アカウントで動作しない Microsoft 以外のプログラムの一覧については、サポート技術情報の記事番号 307091 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83434) を参照してください。

制限付きの共有管理者アカウントは、ほとんどの制限が削除され、ロック解除されたユーザー プロファイルです。このような制限の解除されたユーザー アカウントを使用することにより、非標準アプリケーションの実行に必要な拡張されたアクセス許可を利用できます。

一般ユーザーに対して共有管理者アカウントを作成する前に、次の質問について検討してください。

- この非標準ソフトウェアは、Windows XP の制限されたユーザー特権で正しく動作するバージョンにアップグレードまたは置換することが可能かどうか。
- ビジネス ニーズへの影響をできるだけ少なくして、このソフトウェアを環境から削除できるかどうか。

上記の質問に対する答えがどちらも "いいえ" である場合、制限付きの共有管理者アカウントを作成します。

注： *共有コンピュータがネットワークに接続している場合、ネットワーク ポリシーにより、ネットワーク ドメインの管理者でなければこの手順を完了できない場合があります。*

▶ コンピュータの Administrators グループに共有ユーザー アカウントを追加するには

1. Windows SteadyState 管理者としてログオンします。コンピュータの Administrators グループに共有ユーザー アカウントを追加するには、管理者または Administrators グループのメンバとしてログオンしている必要があります。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。
3. [コントロール パネル] の [ユーザー アカウント] をダブルクリックします。
4. [ユーザー] タブの [このコンピュータのユーザー] ボックスの一覧で、Administrators グループに追加する共有ユーザー アカウントをクリックし、[プロパティ] をクリックします。
5. [グループ メンバシップ] タブで [その他] を選択し、一覧から [Administrators] を選択して、[OK] をクリックします。

Administrators グループに共有ユーザー アカウントを追加したら、Windows SteadyState を使用して、非標準アプリケーションの実行に必要な拡張されたアクセス許可を除き、すべてのプログラムおよび設定への共有管理者アカウントのアクセスを制限します。

重要： *ユーザー アカウントの制限を削除して、管理者のアクセス権で Microsoft 以外のソフトウェアを実行できるようにすると、Windows SteadyState で制限されていないアカウントを許可することに関連して、セキュリティ リスクにさらされる可能性が高くなり、共有コンピュータ上の環境が不安定になる場合があります。*

► 共有管理者アカウントを制限するには

1. Windows SteadyState 管理者としてログオンします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をポイントし、[Windows SteadyState] をクリックします。
3. [Windows SteadyState] メイン ダイアログ ボックスの [ユーザー設定] で、作成した共有管理者ユーザー プロファイルをクリックします。
4. [全般] タブの [全般設定] で、[プロファイルをロックし、ユーザーが永続的な変更を加えられないようにする] チェック ボックスをオンにします。
5. [Windows の制限] タブで、[高レベルの制限] を選択します。 [スタート メニューの制限] で、すべての制限を選択されたままにします。いずれかの制限をオフにすると、共有コンピュータのセキュリティ リスクが生じる可能性があります。ただし、非標準アプリケーションごとに、一部の制限をオフにすることもできます。
6. [非表示にするドライブ] で、制限付き管理ユーザーに対して非表示にするドライブを選択します。

共有コンピュータのセキュリティを強化するため、次の制限を構成して、システム ファイルやプログラム フォルダへの制限付き管理者のアクセス権を制限します。

- [Windows の制限] タブの [全般的な制限] ボックスで、[メモ帳とワードパッドを無効にする] チェック ボックスをオンにします。これにより、制限付き管理者ユーザー アカウントは、重要なスクリプトおよびバッチ ファイルを変更してセキュリティを回避することはできなくなります。
- [Windows の制限] タブの [スタート メニューの制限] で、[All Users フォルダのプログラムを表示しない] チェック ボックスと [[ヘルプとサポート] アイコンを削除する] チェック ボックスをオンにします。これにより、制限付き管理ユーザーがログオンしたとき、[スタート] メニューにプログラムが表示されなくなります。

- [機能の制限] タブで、[Microsoft Office の制限] チェック ボックスをオンにします。これにより、制限された管理者は、実行する非標準アプリケーションに関連のない Microsoft Office プログラムを実行できなくなります。

ユーザー プロファイルに対する異なる言語の指定

Windows XP Multilingual User Interface (MUI) Pack とは言語固有のリソース ファイルで、Windows XP Professional の英語版に追加できます。この MUI を使用すると、オペレーティング システムのインターフェイス言語を、サポートされている 33 言語のうち、どれにでも変更できます。Windows SteadyState をインストールしておけば、ユーザーに合ったユーザー インターフェイス言語を指定できます。

MUI は、大規模な組織またはエンタープライズ レベルで共有コンピュータを管理し、ユーザーに代替言語リソースを提供する必要がある Windows SteadyState 管理者に有効です。MUI は、Microsoft Open License プログラム (MOLP/Open)、Select、エンタープライズ アグリーメントなどのマイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムでのみ購入できます。

MUI Pack の要件

MUI は、Windows XP Professional を実行しているコンピュータで機能します。Windows XP Home Edition を実行しているコンピュータでは使用できません。

MUI は、Microsoft Open License プログラム (MOLP/Open)、Select、エンタープライズ アグリーメントなどのマイクロソフト ボリューム ライセンス プログラムでのみ購入できます。MUI をインストールするには、英語版のオペレーティング システムがコンピュータで実行されている必要があります。このため、MUI は OEM 版でのみ入手でき、小売では販売されていません。

MUI をインストールするための Windows SteadyState の構成

キーボードで文字を入力するときの入力言語をコンピュータで構成できます。複数の言語を構成することにより、ユーザーは必要な言語に切り替えることができます。MUI から適切な言語をインストールしておけば、ユーザー プロファイルでその入力言語を追加できます。

ユーザー プロファイルに入力言語を追加する前に、言語を追加するための Windows SteadyState の環境が適切に構成されていることを確認してください。

► MUI をインストールするために Windows SteadyState を準備するには

1. 管理者としてログオンします。
2. [ハード ディスクの保護] をクリックし、Windows ディスク保護がオンであること、および [すべての変更を永続的に保持する] が選択されていることを確認し、[OK] をクリックします。
3. [ユーザー設定] で、ユーザーの入力言語を変更するユーザー アカウントをクリックします。
4. ユーザー アカウントのすべての制限をオフにします。
5. MUI をインストールします。

   Windows MUI Pack の要件およびインストールの詳細については、MSDN® の記事 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83435) を参照してください。
6. Windows SteadyState 管理者としてログオフしてコンピュータに変更を保存します。

ユーザーの入力言語の変更

MUI をインストールした後、[コントロール パネル] の [地域と言語のオプション] ダイアログ ボックスで、コンピュータで使用する各種の標準と書式、ユーザーの地域、およびユーザー プロファイルで使用する入力言語を定義できます。

► ユーザー プロファイルで使用する入力言語を追加するには

1. ユーザーの入力言語を変更する特定のユーザー アカウントにログオンします。
2. [スタート] ボタンをクリックし、[コントロール パネル] をクリックします。
3. [コントロール パネル] の [地域と言語のオプション] をダブルクリックします。
4. [地域と言語のオプション] ダイアログ ボックスで、[言語] をクリックします。次に、[テキスト サービスと入力言語] の [詳細] をクリックします。
5. [テキスト サービスと入力言語] ダイアログ ボックス の [既定の言語] で、ユーザーのプロファイルに追加するユーザーの入力言語を選択します。[インストールされているサービス] で、選択した入力言語のその他のサービスを追加できます。
6. 入力言語を追加したら、ユーザー アカウントをログオフし、Windows SteadyState 管理者としてログオンします。
7. 変更したユーザー プロファイルで、必要に応じて制限を再設定します。

複数のコンピュータへの Windows SteadyState のインストール

同等のハードウェア構成を持つ複数のコンピュータに Windows SteadyState をインストールする場合、最も効率的なインストール方法はディスクのイメージング (複製とも呼ばれる) を使用することです。次の操作が必要です。

- **参照コンピュータを構成する** – Windows SteadyState のインストール イメージを環境内の他のコンピュータに複製するのに使用するコンピュータを構成します。このハンドブックの「Windows SteadyState のインストール」に記載されたインストール手順に従って、ディスク イメージングの参照コンピュータを準備し、複数のコンピュータにインストールします。
- **システム準備ツールを使用して参照コンピュータを準備する** – Windows SteadyState のインストール、ユーザー プロファイルの作成、およびセキュリティと重要な更新プログラムのインストールが完了したら、システム準備ツール (Sysprep) を使用してイメージング用のコンピュータの準備をします (省略可能)。Sysprep は、Windows XP オペレーティング システムの CD にあります。Sysprep の使用の詳細については、サポート技術情報の記事番号 302577 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83437) を参照してください。
- **参照コンピュータのイメージを作成する** – 参照コンピュータのハード ディスクのイメージを作成し、そのイメージを他のコンピュータのハード ディスクに転送します。この操作では、Microsoft 以外のディスク イメージング ソフトウェア アプリケーションも使用できます。Windows XP インストールのディスク複製の詳細については、サポート技術情報の記事番号 314828 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83438) を参照してください。
- **複数のコンピュータにイメージを転送してセットアップする** – 複数のコンピュータにディスク イメージが転送されると、ミニ セットアップ ウィザードが起動して、新しいコンピュータで使用する Windows XP の検証およびライセンス認証が行われます。
- **すべての共有コンピュータの Windows ディスク保護をオンにする** – 他のコンピュータにディスク イメージが転送され、各共有コンピュータ上のすべてのユーザー プロファイルの準備が整っていることを確認したら、Windows ディスク保護をオンにします。

参照コンピュータの構成

オペレーティング システムのクリーン インストールを使用して参照をセットアップして、参照コンピュータを使用してマスタ ディスク イメージを作成し、複数の Windows SteadyState のインストール用に構成することをお勧めします。Windows ディスク保護を使用し、ユーザー アカウントを作成し、ユーザー プロファイルを構成して Windows SteadyState をインストールするためのコンピュータの準備については、このハンドブックの「Windows SteadyState のインストール」を参照してください。

システム準備ツールによる参照コンピュータの準備

参照コンピュータを構成した後は、イメージング用のコンピュータの準備をします。コンピュータ名やセキュリティ ID (SID) など、Windows XP Professional コンピュータ上の多数の設定は一意であることが必要です。SID は、Windows セキュリティ サブシステムを介してオブジェクトを追跡するために使用される番号です。この要件を満たすために、Windows XP Professional にはシステム準備ツール (Sysprep) と呼ばれるツールが用意されています。このツールは、コンピュータから SID とその他のユーザー固有情報およびコンピュータ固有情報をすべて削除し、コンピュータをシャットダウンします。これにより、ディスク複製ツールを使用してディスク イメージを作成できるようになります。ディスク イメージとは、オペレーティング システムがインストールされているハード ディスク全体の内容を収めた圧縮ファイルです。

Sysprep を使用して、Windows SteadyState がインストールされたディスク イメージング用の参照コンピュータを準備できます。準備が整ったら、同一または類似のハードウェア構成を持つ複数のコンピュータにディスク イメージを複製できます。

Windows SteadyState がインストールされたコンピュータで Sysprep を実行する場合、ツールを実行する前に、すべてのユーザー プロファイルがロック解除されていることを確認してください。Sysprep.exe は、ロックされたプロファイルと固定プロファイルを認識せず、新しい Ntuser.dat ファイルを <ユーザー> フォルダにコピーします。さらに、Sysprep.exe は、新しいユーザーの SID も作成します。既存の Windows SteadyState ユーザー プロファイル (Ntuser.man) は、新しい SID にリンクされないため、Sysprep.exe の実行後は無効になります。

通常、Sysprep で作成されたディスク イメージを読み込んだクライアント コンピュータで初めて Windows XP Professional を起動すると、一意の SID が自動的に生成され、プラグ アンド プレイ検出が行われ、ミニ セットアップ ウィザードが起動します。ミニ セットアップ ウィザードでは、ユーザー固有の情報およびコンピュータ固有の情報の入力を求められます。この情報には、マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項、地域のオプション、ユーザー名と会社名、プロダクト キーなどがあります。

マスタ イメージに Sysprep.inf と呼ばれる特殊な応答ファイルを含めると、イメージング プロセスをさらに自動化できます。Sysprep.inf は、ミニ セットアップ ウィザードを自動化する応答ファイルです。このファイルは、Unattend.txt と同じ INI ファイル構文と (サポートされているキーについて) 同じキー名を使用します。Sysprep.inf は、*%systemdrive%*¥Sysprep フォルダまたはフロッピー ディスクに置きます。フロッピー ディスクを使用する場合は、Windows のスタートアップ画面が表示された後で、フロッピー ディスク ドライブに挿入します。Sysprep の実行時に Sysprep.inf を含めないと、ミニ セットアップ ウィザードではカスタマイズ画面ごとにユーザーによる入力が必要になります。

Sysprep の使用方法の詳細については、次のリソースを参照してください。

- イメージング用にシステムを準備するための Sysprep の使用など、クライアントのイメージ プロセスの概要については、http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83440 を参照してください。
- Sysprep のインストールをカスタマイズする方法の詳細については、http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83441 を参照してください。

参照コンピュータのイメージの作成

システム準備ツールを実行してイメージング用の参照コンピュータの準備が完了すると、参照コンピュータがシャットダウンされます。この時点で、Microsoft 以外のディスク イメージング ツールを使用して、コンピュータのハード ディスクのイメージを作成できます。

Windows XP インストールのディスク複製の詳細については、サポート技術情報の記事番号 314828 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83438) を参照してください。

複数のコンピュータへのイメージの転送とセットアップ

新しいコンピュータにイメージを転送してコンピュータを起動すると、一意の SID が生成され、プラグ アンド プレイ検出が始まり、ミニ セットアップ ウィザードが起動します。インストールが終わったら、次の操作を完了する必要があります。

- **Windows のライセンス認証** – Windows のライセンス認証の詳細については、サポート技術情報の記事番号 302806 (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83442) を参照してください。
- **Windows XP の検証** – Windows の検証は、正規 Windows 推奨プログラムの Web サイト (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83431) で実行できます。Sysprep を使用してイメージング用のコンピュータを準備した場合は、Windows SteadyState を使用する前に Windows をもう一度検証する必要があります。

すべての共有コンピュータの Windows ディスク保護をオンにする

共有コンピュータにディスク イメージがインストールされたら、Windows ディスク保護をオンにしてシステム ドライブを保護し、各コンピュータ上のロック解除されたユーザー プロファイルを保存します。システム ドライブの制限を構成するときは、すべてのコンピュータで [すべての変更を持続的に保持する] が選択されていることを確認します。選択されていないと、コンピュータの再起動時に、新しくインストールしたロック解除されたユーザー プロファイルが Windows ディスク保護によって削除されます。

ユーザー プロファイルのエクスポートとインポートの詳細については、このハンドブックの「ユーザー プロファイルのエクスポートとインポート」を参照してください。

Windows SteadyState での Active Directory およびネットワーク ドメインの使用

Active Directory® ディレクトリ サービスは、ネットワーク上の共有コンピュータに多大な利点を提供します。Active Directory を利用するネットワーク ユーザーは、1 組の資格情報を使用するだけで、ネットワーク上のあらゆる場所にあるリソースに対して制御されたアクセスが可能です。また、ネットワーク管理者は、直感的な階層形式でネットワークの状況を確認でき、すべてのネットワーク オブジェクトを集中管理できます。

Active Directory は、ネットワーク リソースへのアクセスを要求しているユーザー アカウントを集中管理するための環境を提供します。この環境では、多数の教育機関で必要とされるように、ユーザーは複数のコンピュータで同一の資格情報を使用してログオンする必要があります。このような理由から Windows SteadyState は、ワークグループ コンピュータで使用する場合と同様に、ドメイン環境でも良好に動作するように設計されています。

Windows SteadyState の設定と制限の大半は、Windows SteadyState に付属のグループ ポリシー テンプレート (SCTSettings.adm) でも利用できます。ドメイン ネットワークに接続されている共有コンピュータへの Windows SteadyState のインストールを検討している場合は、Windows SteadyState を使用するよりもグループ ポリシーの方が、ドメイン ネットワーク上の膨大な数のコンピュータ全体で複数のユーザー アカウントに対する制限を効率的に設定できます。

ドメイン参加コンピュータでの Windows ディスク保護

Windows XP Professional を実行しているコンピュータが Active Directory ドメインに参加している場合、そのコンピュータは、コンピュータ アカウントのパスワードを使用して、ドメインでの認証を行い、ドメイン リソースにアクセスします。ドメイン参加コンピュータの既定では、コンピュータ アカウントのパスワード変更が 30 日以内の間隔で自動的に実行されます。ドメイン コントローラは、そのパスワードの変更を認め、ドメイン参加コンピュータを引き続き認証できるようにします。新しいパスワードは、ドメイン参加コンピュータ上でローカルに格納され、Active Directory で確認できます。パスワードの変更に失敗した場合、またはドメイン参加コンピュータで使用されたパスワードが正しくない場合、そのコンピュータはドメインにアクセスできません。

ソフトウェアの集中管理と Windows ディスク保護

Windows ディスク保護をオンに設定すると、重要な更新プログラムが Windows ディスク保護で実行されるので、コンピュータのソフトウェアが理想的な形で更新されます。Windows ディスク保護では、定期的にコンピュータを再起動してディスクの変更内容をすべて消去し、コンピュータの信頼性を確保した上で、必要な更新プログラムをダウンロードし、インストールします。これにより、コンピュータの高い信頼性を維持できます。この方式は、中央から更新を開始して更新時期を随時スケジュールできるソフトウェア集中管理方式よりも柔軟性が多少劣ります。

Microsoft Systems Management Server (SMS) のように集中管理によるソフトウェア配信システムには、ソフトウェアの更新時期を随時スケジュール設定できる柔軟性がありますが、Windows ディスク保護を使用する場合は、特定の時期にソフトウェアが更新されるようにスケジュール設定する必要があります。

Windows ディスク保護で設定した固定スケジュールに従うのではなく、ソフトウェア更新プログラムを定期的に変更する必要がある組織の場合は、Windows ディスク保護が実際の運用環境に適しているかどうかを検討する必要があります。

これとは逆に、クライアント側で実行する Windows ディスク保護による更新プロセスに、集中管理ソフトウェアの更新プロセスを組み込むことができれば、ソフトウェアの集中配信と Windows ディスク保護を共存させることができます。

注：*Windows ディスク保護によるソフトウェア管理方式は、ノートブックやタブレットのような携帯コンピュータの環境には適していない可能性があります。これは、Windows ディスク保護による重要な更新プログラムの実行予定日時に、これらのコンピュータがネットワークから切り離されていたり電源が入っていなかったりすることが多いからです。*

複数ユーザー向けの固定プロファイルの作成

固定ユーザー プロファイルとは、ユーザーが復元不可能な変更を行うことができない移動ユーザー プロファイルです。固定ユーザー プロファイルは Windows XP Professional で使用できます。Windows XP Home Edition では使用できません。固定ユーザー プロファイルはネットワーク サーバー上に格納されており、ユーザーがログオンするたびにダウンロードされて適用されます。このプロファイルは、ユーザーがログオフするときにも更新されません。

固定プロファイルを使用する利点は、マスタ固定プロファイルを変更すれば、ユーザーは、ネットワークに接続されているすべての共有コンピュータでそのプロファイルにアクセスできることです。固定プロファイルの短所となる点があるとすれば、ユーザーがログオンするためには共有コンピュータにネットワーク アクセスが必要なことです。共有コンピュータがネットワークにアクセスできない場合は、固定ユーザー プロファイルを使用できないので、ユーザーはログオンできません。

► 複数ユーザー向けの固定プロファイルを作成するには

1. 固定プロファイルを格納するネットワーク サーバー上に共有フォルダを作成します。
2. 使用する固定ユーザー プロファイルごとに、その共有フォルダの下にサブフォルダを作成します。
3. [スタート] ボタン、[コントロール パネル] の順にクリックします。[コントロール パネル] で [管理ツール] をダブルクリックし、[コンピュータの管理] をダブルクリックします。
4. [コンピュータの管理] で [ローカル ユーザーとグループ] をクリックし、[ユーザー] をダブルクリックします。
5. 固定プロファイルを使用するユーザー アカウントごとに、アカウントを右クリックして [プロパティ] をクリックします。
6. [プロパティ] ウィンドウで [プロファイル] をクリックします。[プロファイル] のパスに、固定プロファイルを保存する共有フォルダへのネットワーク パスを入力します (たとえば、C:¥*server1*¥*profiles*¥*user1*)。

7. Windows SteadyState で、ユーザー プロファイルの作成、構成、および制限の設定を行い、そのユーザー プロファイルを適切なネットワーク共有フォルダにコピーします。
8. ネットワーク共有フォルダのプロファイル フォルダで、Ntuser.dat ファイルの名前を Ntuser.man に変更します。これにより、ユーザー プロファイルが単純な移動プロファイルから固定プロファイルに変わります。

固定ユーザー プロファイルの作成と使用方法の詳細については、次のリソースを参照してください。

- 移動プロファイルと固定プロファイルの概要については、Windows XP Professional 製品ドキュメントの「User profiles overview (英語)」(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83443) を参照してください。
- Windows XP で固定プロファイルをユーザー アカウントに割り当てる手順については、Microsoft サポート オンライン (http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83444) を参照してください。

制限なしのドメイン アカウントに対するユーザー制限の作成

組織によっては、特定のコンピュータのドメイン アカウントを制限する必要があっても、このようなドメイン アカウントをグループ ポリシーでは制限していないことがあります。これは、CD や DVD の作成ラボや専門のコンピュータ キオスクなど、ドメイン ユーザーが一時的に使用する共有施設でよく見られます。

同様に、あるオペレータが特定のコンピュータのドメイン アカウントを制限する必要があっても、グループ ポリシーの範囲では必要な変更を加えるアクセス権がないことがあります。

セキュリティに配慮した環境では、ドメイン ユーザーが初めてログオンしたときに、ネットワークに発生した問題によってグループ ポリシー制限を適用できない場合でも (通常は、タイミングを見計らってネットワーク ケーブルを抜くなどの不正操作によって発生します)、既定の制限をドメイン ユーザーに適用しようとすることがあります。

注：*Default User フォルダをドメイン コントローラの NETLOGON 共有フォルダにコピーすると、そのドメインのすべてのユーザーに対し、ユーザーが初めてログオンしたときに、この既定プロファイルの設定と制限が適用されます。このフォルダは他のすべてのドメイン コントローラに複製されるので、Default User プロファイルがすべての新規ドメイン アカウントに適用されます。*

上記のすべてのシナリオは、Windows SteadyState で Default User プロファイルに制限を設定することで対応できます。Default User プロファイルは、ドメイン アカウントとローカル アカウントの両方で、ユーザー プロファイルを新規に作成するときにテンプレートとして使用されます。この特殊な方法は、移動ユーザー プロファイルで構成したドメイン アカウントでは機能しません。

注： *ドメインで使用するためにプロファイルをカスタマイズする前に、Default User プロファイルのバックアップを作成することをお勧めします。バックアップを作成するには、Documents and Settings フォルダにある Default User フォルダのコピーを作成します。*

► カスタムの Default User プロファイルを作成するには

1. Windows SteadyState 管理者としてログオンします。
2. ローカル ユーザー プロファイルを新規に作成します。
3. いったんログオフし、作成したローカル ユーザーとしてログオンします。
4. ユーザー設定と環境をカスタマイズします。たとえば、次のような設定が可能です。
   - [スタート] メニューのカスタマイズ
   - デスクトップとタスク バーのカスタマイズ
   - プリンタのインストールと構成
5. いったんログオフし、Windows SteadyState 管理者としてログオンします。
6. 新規作成したユーザー プロファイルを構成し、制限を適用します。
7. [スタート] ボタン、[マイ コンピュータ] の順にクリックします。
8. [ツール] メニューの [フォルダ オプション] をクリックします。
9. [フォルダ オプション] ダイアログ ボックスの [表示] タブにある [詳細設定] で、[非表示のファイルとフォルダを表示する] をオンにし、[OK] をクリックします。新しいプロファイルでは、既定で隠しファイルになっているファイルがあるので、新しいカスタムの Default User プロファイルにコピーできるように、隠しファイルを表示する必要があります。
10. [スタート] ボタンをクリックし、[マイ コンピュータ] を右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
11. [システムのプロパティ] ダイアログ ボックスの [詳細設定] タブにある [ユーザー プロファイル] で、[設定] をクリックします。
12. [ユーザー プロファイル] ダイアログ ボックスで、作成してカスタマイズしたユーザー プロファイルをクリックし、[コピー先] をクリックします。

13. [コピー先] ダイアログ ボックスの [プロファイルのコピー先] で [参照] をクリックし、¥Documents and Settings¥Default User フォルダをクリックして、[OK] をクリックします。
14. [使用を許可するユーザー/グループ] で [変更] をクリックし、[Everyone]、[OK] の順にクリックします。[Everyone] が選択できない場合は [詳細設定] をクリックし、[今すぐ検索]、[Everyone]、[OK] の順にクリックします。

Default User プロファイルをカスタマイズすると、Windows XP では、コンピュータにログオンするすべての新規ユーザーに対して、Default User プロファイルが割り当てられ、設定された制限が適用されます。この方法は、新規ユーザー プロファイルを作成したときに、そのプロファイルをロックする処理には使用できません。ただし、カスタマイズした Default User プロファイルを Windows ディスク保護とともに使用して、Windows パーティションに作成された新規ユーザー プロファイルをコンピュータが再起動されるたびに消去できます。

SCTSettings.adm を使用したグループ ポリシー制限の作成

Windows SteadyState には SCTSettings.adm と呼ばれるグループ ポリシー テンプレートがあります。通常、このテンプレートは C:¥Program Files¥Windows SteadyState の下の ADM フォルダの中に置かれています。このテンプレートには Windows SteadyState の [ユーザー設定] ダイアログ ボックスの [機能の制限] タブに含まれている設定の大半が再現されているので、このテンプレートを使用して、Active Directory ドメインのメンバであるユーザーに制限を展開できます。

ドメインのグループ ポリシーは、グループ ポリシー管理コンソール、Microsoft からダウンロードできるアドイン ツール、または Active Directory ユーザーとコンピュータに組み込まれているグループ ポリシー エディタのいずれかを使用して構成できます。SCTSettings.adm テンプレートをこれらのツールに追加することにより、共有コンピュータのユーザー アカウントに適したアカウント制限と設定にアクセスできるようになります。

コンピュータに Windows SteadyState がインストールされている場合は、Windows SteadyState に付属している SCTSettings.adm グループ ポリシー テンプレートを使用して、アイドル タイマと強制ログオフ タイマを設定することもできます。

これらの設定は、すべてのコンピュータの正当な管理ユーザー アカウントを制限することがないように、特定のユーザー アカウントにのみ適用することが重要です。

► Active Directory ユーザーとコンピュータを使用して Windows SteadyState の制限を管理するには

1. Microsoft Windows Server™ 2003 が実行されているコンピュータで [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] をクリックして、Active Directory ユーザーとコンピュータを起動します。
2. [管理ツール] をクリックします。[Active Directory ユーザーとコンピュータ] で、ポリシーを設定する組織単位 (OU) を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
3. [グループ ポリシー] タブで、変更するポリシーを選択し、[編集] をクリックします。
4. [ユーザーの構成] を展開し、[管理用テンプレート] フォルダを右クリックして [テンプレートの追加と削除] をクリックします。
5. [テンプレートの追加と削除] ダイアログ ボックスで [追加] をクリックしてから SCTSettings.adm テンプレートの場所を参照します。通常は、C:¥Program Files¥Windows SteadyState¥ADM フォルダです。
6. [Windows SteadyState のすべての制限] フォルダの中の設定を確認します。Windows SteadyState のプログラムの制限とユーザーの制限の設定は類似しています。設定ごとに説明が追加されています。
7. 必要に応じて制限を変更し、グループ ポリシー エディタを終了します。

注：*環境内の共有ユーザー アカウントを保存する組織単位を作成することをお勧めします。さらに、この専用の組織単位にリンクしているグループ ポリシー オブジェクトのユーザー構成部分に、SCTSettings.adm テンプレートを適用することをお勧めします。*

グループ ポリシーのソフトウェア制限ポリシー

管理者は、管理する共有コンピュータが 1 台だけの場合や、共有コンピュータ環境が小規模の場合は、Windows SteadyState でソフトウェアを効率的に管理できます。ただし、ソフトウェアの制限を集中管理するコンピュータの台数やユーザーの数が多い場合は、グループ ポリシー ソフトウェア制限ポリシーを使用してソフトウェア制限を設定することをお勧めします。特定のサイト、ドメイン、または組織単位の多数のコンピュータの場合、ソフトウェア制限ポリシーの使用によって実装されるソフトウェアの制限の方が、Windows SteadyState によって実装できる制限よりも効率よく管理することができます。

ソフトウェア制限ポリシーの使用によって適用できるソフトウェアの制限は、Windows SteadyState で適用できる制限とまったく同じです。

グループ ポリシーのソフトウェア制限ポリシーの詳細については、(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83445) を参照してください。

Windows XP でのソフトウェア制限ポリシーを使用したソフトウェアの制限の複製

Windows XP でソフトウェア制限ポリシーを使用して、Windows SteadyState 管理者が構成できる Windows とプログラムを制限する各種設定を直接的に複製する場合は、この後の項で説明するパス ルールを作成します。ソフトウェア制限ポリシーを使用して、メモ帳とワードパッドを制限したり、Microsoft Office プログラムの実行を禁止したりすることもできます。

たとえば、Windows SteadyState の [Windows の制限] タブにある [[Program Files] と [Windows] フォルダのプログラムのみ実行を許可する] の設定を複製するには、ソフトウェア制限ポリシーで、[Software Restriction Policy Security Level] を [Disallowed] に設定し、表 6 に示す各パスを制限するか許可するかを指定するルールを作成します。

表 6 : ソフトウェア制限ルール

ルール	説明
%ProgramFiles%	プログラムの実行を許可します。
%Windir%	Windows プログラムの実行を許可します。
***.lnk**	[スタート] メニューとデスクトップのショートカットを使用できるようにします。

セキュリティを強化する手段として、Temp フォルダ内のファイルの実行を制限するパス ルールを作成して追加することもできます。Temp フォルダに対するユーザーの読み取り/書き込み許可を制限するには、ソフトウェア制限ポリシーを使用して次のルールを追加します。

```
%WinDir%¥Temp
```

グループ ポリシーのソフトウェア制限ポリシーの詳細については、(http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=83445) を参照してください。

ログオフ スクリプトを使用したログオフ後の再起動の構成

Windows XP を実行しているコンピュータがドメインに参加している場合は、ユーザー ログオン セッション後に変更を確実に消去することは容易ではありません。グループ ポリシーとソフトウェア制限ポリシーを使用する場合は、ログオフ スクリプトを使用して、[ログオフ後にコンピュータを再起動する] オプションの設定を再現します (このオプションは、通常は Windows SteadyState の [全般設定] に含まれています)。

▶ グループ ポリシーを使用して、ユーザーによるログオフ時にコンピュータが再起動するように構成するには

1. ユーザーの所属先ドメインまたは組織単位のグループ ポリシー オブジェクトを開きます。
2. [ユーザーの構成] で [Windows の設定] を展開し、[スクリプト (ログオン/ログオフ)] をクリックします。
3. [ログオフ] オブジェクトを開き、ログオフ スクリプトを追加します。コンピュータを再起動するコマンドを持つ Windows でサポートされているスクリプト言語であれば、どのスクリプト言語で記述されたスクリプトでもログオフ スクリプトとして使用できます。

注： *コンピュータを再起動するには、バッチ ファイルで shutdown コマンドを使用します。コマンド プロンプトで、次のコマンドを入力します。*

```
shutdown -r -t 00
```

コマンド プロンプトへのアクセスが制限されていると、shutdown コマンドは使用できません。Windows SteadyState に付属している ForceLogoff.exe ツールを使用してコンピュータを再起動することもできます。

ユーザー環境のプライバシーおよびセキュリティ保護の向上

プライバシーおよびセキュリティは、共有コンピュータを管理および使用する上で非常に重要な要素です。Windows SteadyState の使用は、共有コンピュータを望ましくない変更から保護し、ユーザーのプライバシーが保護される環境を提供する上で役立ちます。

ここでは、共有ユーザーのプライバシーおよびセキュリティの保護が強化された環境を提供できるように、Windows SteadyState でコンピュータ、Windows、および機能制限を選択する際に役立つ推奨事項を紹介します。

コンピュータの制限の設定

プライバシー設定

[プライバシー設定] で、次の制限を選択します。

- **[Windows へのログオン] ダイアログ ボックスにユーザー名を表示しない**
- **ロックされたユーザー プロファイルまたは移動ユーザー プロファイルがコンピュータ上に見つからない場合、そのログオンを禁止する**
- **以前このコンピュータにログオンしたことのあるユーザーに対しては、ロックされたユーザー プロファイルまたは移動ユーザー プロファイルのコピーをキャッシュしない**

セキュリティ設定

[セキュリティ設定] で、次の制限を選択します。

- **Windows による LAN Manager Hash の値を使用したパスワードの計算と保存を許可しない**
- **Windows Live ID またはドメインへのログオンに使用されるユーザー名とパスワードを保存しない (コンピュータの再起動が必要です)**
- **ユーザーがドライブ C:¥ にフォルダとファイルを作成することを禁止する**

更新プログラムのインストール

更新プログラムのスケジュール

[更新プログラムの自動ダウンロードとインストールに Windows SteadyState を使用する] を選択します。Windows SteadyState を使用し、スケジュールした時間に Microsoft から重要な更新プログラムを自動的にインストールすることができます。自動更新をスケジュールすることで、必要な Microsoft 更新プログラムが共有コンピュータに対して適時にインストールされるように設定できます。

更新プログラムの選択

[セキュリティ プログラムの更新] チェック ボックスをオンにし、Windows SteadyState で自動的に更新するプログラムを選択します。この設定により、Windows SteadyState では、[セキュリティ プログラムの更新] チェック ボックスに表示されたプログラムのソフトウェア更新が [ソフトウェア更新のスケジュール] ダイアログ ボックスにスケジュール設定された時間にインストールされるようになります。

ディスクの保護

[ハード ディスクの保護] で、次のオプションを選択します。

- **Windows ディスク保護をオンにする**
- **再起動時にすべての変更を削除する**

ユーザー プロファイルの構成

[全般] タブ

- 各共有ユーザー プロファイルの [ログオフ後にコンピュータを再起動する] を選択します。
- [全般の設定] で、[プロファイルをロックし、ユーザーが永続的な変更を加えられないようにする] を選択します。
- [セッション タイマ] の [次のアイドル時間の経過後ログオフ] を選択し、ユーザーが一定時間にわたってコンピュータを離れた際に、コンピュータからログオフするように設定する時間数を分単位で入力します。

[Windows の制限] タブ

[[スタート] メニューの制限] で、次の制限を選択します。

- **[マイ ドキュメント] アイコンを削除する**
- **[最近使ったドキュメント] アイコンを削除する**
- **[マイ ピクチャ] アイコンを削除する**
- **[マイ ミュージック] アイコンを削除する**
- **[お気に入り] アイコンを削除する**
- **頻繁に利用するプログラムの一覧を削除する**

[非表示にするドライブ] でネットワーク ドライブおよび保護されていないパーティション ドライブがユーザーに表示されないようにします。その場合も、ユーザーに対して USB ドライブにはデータの読み取りおよび保存を許可できます。

[機能の制限] タブ

[Internet Explorer の制限] で、次の制限を選択します。

- **Internet Explorer の終了時、[Temporary Internet Files] フォルダを空にする**
- **[インターネット オプション] の [セキュリティ] タブを削除する**
- **[インターネット オプション] の [プライバシー] タブを削除する**
- **[オートコンプリートを無効にする] の選択**

付録 A : Windows SteadyState 用語集

この用語集では、このハンドブック全体で使用されている Windows SteadyState に関連する用語、表現、および機能名の定義について説明します。

Active Directory

Windows ベースのディレクトリ サービス。ネットワーク上のオブジェクトに関する情報を格納すると共に、ユーザーとネットワーク管理者がその情報を利用できるようにします。Active Directory によって、ネットワーク ユーザーは単一のログオン プロセスを使い、ネットワークで許可されたリソースにアクセスできます。ネットワーク管理者には、ネットワーク全体を直観的に把握できる階層構造が表示されるので、すべてのネットワーク オブジェクトを集中管理できます。

Microsoft Update

Windows オペレーティング システム ソフトウェア、Windows 対応ハードウェア、Microsoft Office システム、Microsoft SQL Server™、Microsoft Exchange Server などの Microsoft 製品の更新プログラム (パッチやフィックス) を 1 か所にまとめて提供している Microsoft の Web サイト。

User Profile Hive Cleanup Service (UPHClean)

ユーザーがログオフしたときに、ユーザー セッションを完全に終了するサービス。ユーザーがログオフしても、システム プロセスとアプリケーションがレジストリ キーとの接続を維持する場合があります。これが発生すると、ユーザー セッションは完全に終了しません。

Windows Genuine Advantage (WGA) (正規 Windows 推奨プログラム)

正規に購入された Windows ソフトウェアに対して、更新プログラムへのアクセス、各種プログラムのダウンロード、試用版の無料使用、および特典を提供するプログラム。

Windows Live ID

Windows Live ID サイトとサービスにアクセスできる 1 組のサインイン資格情報 (電子メール アドレスとパスワード)。

Windows SteadyState

公共の共有コンピュータの管理者が、セッション間でコンピュータの信頼性と安定性を維持するために使用するソフトウェア アプリケーション。

Windows Update

Windows ユーザーがデバイス ドライバのインストールや更新を実行できる Microsoft の Web サイト。Windows Update では、ActiveX® コントロールを使用してユーザーのシステム上のドライバをチェックし、新しいバージョンや更新されたバージョンをインストールするように提示します。

Windows ディスク保護

Windows オペレーティング システムおよびその他のプログラムを格納している Windows パーティションを保護し、ユーザー セッション中の変更が次のユーザー セッションに継承されないようにする機能。Windows ディスク保護をインストールした後、管理者は、各コンピュータの起動時に変更をどのように処理するかを選択できます (Windows パーティションに対するすべての変更を保持する、指定した期間だけ保持する、またはすべての変更を削除する)。

Windows の制限

プログラム、設定、[スタート] メニュー項目へのユーザーによるアクセスを制限し、復元不能な状態に改変されないように、共有ローカル ユーザー プロファイルをロックします。

移動ユーザー プロファイル

ユーザーがログオンしたときにローカル コンピュータにダウンロードされ、ユーザーがログオフしたときにローカルでもサーバー上でも更新されるサーバー ベースのユーザー プロファイル。移動ユーザー プロファイルは、ワークステーションまたはサーバーのコンピュータにログオンするとき、サーバーから取得されます。ユーザーがログオンしたとき、ローカル ユーザー プロファイルがサーバー上のコピーよりも新しい場合は、ローカル ユーザー プロファイルを使用できます。

イメージング

Windows のインストール状況を記録して、他のコンピュータに展開するプロセス。

インポート

情報をあるシステムまたはプログラムから別のシステムまたはプログラムに持ち込むこと。情報の受け手であるシステムまたはプログラムは、持ち込まれるデータの内部形式または構造をサポートしている必要があります。

ウイルス対策更新プログラム

ソフトウェア メーカーが自社のウイルス対策ソフトウェアを定期的に更新するために実行するプログラム。

エクスポート

データまたはデータベース オブジェクトを他のデータベース、スプレッドシート、ファイル形式に出力して、他のデータベース、アプリケーション、またはプログラムでデータまたはデータベース オブジェクトを使用できるようにすること。サポートされているさまざまなデータベース、プログラム、ファイル形式にデータをエクスポートできます。

カスタム更新プログラム

Microsoft Update Web サイト以外から入手できる、ソフトウェアの更新、パッチ、またはアップグレード プログラム。

家族のための安全設定

Windows で設定する機能であり、親やその他のユーザーが、オンラインおよび操作環境の重要な側面 (特に、通信できる相手や表示される情報) を子供やユーザー自身にとって適切だと考えられるようにカスタマイズできる機能。

管理者

共有コンピュータ システムまたは通信システム、あるいはその両方の使用面を管理する人間。システム管理者は、ユーザー アカウントとパスワードの割り当て、セキュリティ アクセス レベルの確立、記憶域スペースの割り当て、不正なアクセスの監視などの仕事をします。

キオスク

情報を公開するための独立型のコンピュータまたは端末。通常はマルチメディア ディスプレイが使用されます。

機能の制限

ユーザーが使用またはアクセスできる機能の属性とコマンドを制限する設定。

キャッシュ

通常は、情報を一時的に記憶するために使用されるファイル。Windows ディスク保護では、キャッシュ ファイルを利用して、ユーザー セッション中に発生したシステムとプロファイル ファイルへの変更を記憶します。このキャッシュ ファイルは、Windows ディスク保護の構成に応じて、一定の間隔で内容が破棄されます。

共有コンピュータ

常に多様なユーザーによってアクセスされる、公共の環境にあるコンピュータ。多くの場合、この種のコンピュータは、誰もが使用できるコンピュータ、インターネット キオスク、研究用のコンピュータ、または教育用のコンピュータとして利用されます。

共有ユーザー アカウント

複数のユーザーがログオンする単一のユーザー アカウント。

共有ユーザー プロファイル

特定のユーザーに対する構成情報を格納するファイルで、Windows SteadyState によって適用される設定と制約を含むファイル。デスクトップ設定、永続的なネットワーク接続、アプリケーションの設定などの各ユーザーの基本設定はユーザー プロファイルに保存され、ユーザーが Windows にログオンするたびにデスクトップを構成するために使用されます。

公共のコンピュータ

常に多様なユーザーによってアクセスされる、公共の環境にあるコンピュータ。多くの場合、この種のコンピュータは、誰もが使用できるコンピュータ、インターネット キオスク、研究用のコンピュータ、または教育用のコンピュータとして利用されます。

固定ユーザー プロファイル

ユーザーがログオフしても更新されないユーザー プロファイル。ユーザーがログオンするたびに、ユーザーのデスクトップにダウンロードされます。一貫性のあるユーザー プロファイルまたはジョブに固有のユーザー プロファイルを作成するために、管理者によって作成され、1 人以上のユーザーに割り当てられます。プロファイルを変更できるのは Administrators グループのメンバのみです。

コンピュータの制限

オペレーティング システムの機能を制限する設定。プライバシーとセキュリティに関する設定を含みます。

最適化

分散して配置されているファイルの断片をハード ディスクの連続するセクタ上に書き込み直し、アクセスと検索の速度を向上させること。Active Directory では、最適化により、ディレクトリ データベース ファイルに書き込まれたデータが並べ替えられ、コンパクト化されます。

システム準備ツール (Sysprep)

イメージング用のオペレーティング システムを準備するツール。Sysprep は、他のコンピュータにコピーされないようにする必要があるシステム固有の設定とデータを削除します。また、インストールされた Windows の状態を初期状態または監査モードにリセットします。

自動更新

Windows Update Web サイトで動作する機能であり、Windows の更新プログラム (修正プログラム) が発行されたときに、ユーザーが選択できる設定に従って実行されます。

重要な更新プログラム

セキュリティに関係しない重要な問題やバグを解決するために広く公開される修正プログラム。

消去する

ユーザーがログオフしたとき、またはコンピュータが再起動したとき (Windows ディスク保護がオンになっている場合のみ) に、ハード ディスク上のキャッシュ ファイルを空にすること。

[スタート] メニューの制限

[スタート] メニューの属性を制限するために管理者が使用できる設定。

制限

プログラムまたはオペレーティング システムの機能にアクセスできないようにする設定。

制限されたユーザー

Windows SteadyState による設定または制限が適用されるユーザー アカウント。

制限する

プログラムまたはオペレーティング システムの機能にアクセスできないようにすること。

制限レベル

あらかじめ定義され、自動的に適用されるプログラムの制限のセット。

セキュリティ センター

自動更新、インターネット オプション、または Windows ファイアウォール用のセキュリティ設定の管理を開始するための Windows の場所。

セキュリティの設定

Windows でのプライバシー、セキュリティ、およびログオンの設定を指定するための設定。

セッション カウントダウン

セッションが終了するまでの時間をユーザーに警告するセッション カウントダウン インターフェイスを表示するために管理者が使用できる、[ユーザー設定] の [全般] タブにある機能。

セッション タイマ

セッション制限と表示属性を設定するために管理者が使用できる、[ユーザー設定] の [全般] タブにある機能。

ソフトウェア更新プログラムのスケジュール設定

ソフトウェアとオペレーティング システムの更新プログラムの実行スケジュールを設定するために使用する Windows SteadyState の機能。Windows ディクス保護と連携して、更新プログラムが永続的に保存されることを保証します。

通知

システムのユーザーまたは管理者に送られるメッセージまたは告知。受信者は、個人の場合も自動化された通知マネージャの場合もあります。

通知領域

タスク バーのシステム コンロール領域に隣接する領域で、電子メールの受信などの特定のイベントが発生したときにアイコンが表示される領域。

ドメイン

ネットワーク コンピュータ環境の中で、ドメイン データベースとセキュリティ ポリシーを共有するコンピュータの集まり。ドメインは、共通のルールと手順を用いて 1 つの単位として管理され、それぞれに固有の名前が付けられます。

ドライブの制限

共有ユーザー プロファイルを持つユーザーがアクセスおよび表示できるコンピュータのドライブを選択するために管理者が使用できる [ユーザー設定] ダイアログ ボックスの [Windows の制限] タブの機能。

パーティション

物理的に異なるディスクであるかのように機能する物理ディスク上の部分。パーティションは、その作成後に、フォーマットしてドライブ文字を割り当てない限り、データを格納することができません。ベーシック ディスク上では、パーティションはベーシック ボリュームと呼ばれており、プライマリ パーティションと論理ドライブがあります。ダイナミック ディスク上では、パーティションはダイナミック ボリュームと呼ばれており、ダイナミック ボリュームには、シンプル ボリューム、ストライプ ボリューム、スパン ボリューム、ミラー ボリューム、および独立したディスクの冗長配列である RAID-5 ボリュームがあります。

プライバシーの設定

個人データの収集、使用、および配布を制御するために管理者が使用できる設定。

ブロックするプログラム

リスト内のプログラムに対するユーザーのアクセスをブロックするために使用される [ユーザー設定] ダイアログ ボックスのタブ。

保護されたパーティション

Windows ディスク保護によって状態が固定された、共有コンピュータ上のパーティション。

保持する/残す

Windows ディスク保護がオンになっている場合に、ユーザーがログオフしたとき、またはコンピュータが再起動したときに、ハード ディスク上のキャッシュ ファイルをそのままにする (消去しない) こと。

未割り当てディスク領域

パーティションへの分割もフォーマットも行われていないハードディスク上の領域。

無効にする

非アクティブ化する、またはオフにすること。

有効にする

アクティブ化する、またはオンにすること。

ユーザー

コンピュータのソフトウェアを操作する人。コンピュータのオペレータ。

ユーザー アイコン、画像

Windows SteadyState で共有ユーザー プロファイルに関連付けられる絵。

ユーザー プロファイル

特定のユーザー用の構成情報が保持されているファイル。デスクトップ設定、永続的なネットワーク接続、アプリケーションの設定などが保持されます。各ユーザーの基本設定はユーザー プロファイルに保存され、ユーザーがログオンするたびにコンピュータを構成するために使用されます。

ユーザー設定

共有ユーザー プロファイルを構成するために使用する Windows SteadyState の機能。

リモート管理

管理者にとっては、Windows SteadyState の Windows ディスク保護を、リモート コンピュータから Active Directory グループ ポリシーを通じて管理するプロセス。

ロック解除されたユーザー プロファイル

ユーザー セッション中に設定が変更されたユーザー アカウントは、ユーザーの毎回のログオンで保持されます。

ロック解除する

管理者が設定した共有ユーザー プロファイルの構成を、ユーザーがセッション中に変更できるようにすること。

ロックされたユーザー プロファイル

ユーザーがアカウントにログオンするたびに、ユーザー プロファイルの設定が Windows SteadyState で定義された状態に戻るユーザー アカウント。ユーザー プロファイルの設定が物理的にどこにあるかは問いません。

ロックする

管理者が設定した共有ユーザー プロファイルの構成を固定して、ユーザー セッション中の変更が反映されないようにすること。

ワークグループ

指定したグループ内のリソース (プリンタや共有フォルダなど) をユーザーが共有できるように、コンピュータをグループに編成したもの。Windows のワークグループでは、ドメインによって提供される中央集中型のユーザー アカウントと認証は提供されません。

索引